

平成22年度 自己点検・評価報告書



長崎女子短期大学

目 次

＊長崎女子短期大学の特色等	1
I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	7
II 教育の内容	11
III 教育の実施体制	23
IV 教育目標の達成度と教育の効果	32
V 学生支援	47
VI 研究	62
VII 社会的活動	66
VIII 管理運営	73
IX 財務	95
X 改革・改善	101

《＊短期大学の特色等》の記述について

1

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）

本学の母体である学校法人鶴鳴学園は、明治29年(1896)10月1日、創立者笠原田鶴子によって「長崎女子学院」として設立されたのが始まりである。当時の長崎は女性の地位が低い風潮であったため、女性の意識を高め社会人として位置付けたいとの教育理念をもとに「女性のための女性による学校」として時流に先んじたものであった。引き継いだ初代理事長原田アサは、大正、昭和の時代の激しい変遷の中で、教育と学園の経営に文字通り精魂を傾けて「鶴鳴」を守りつづけてきたのである。

このように、学園として女子教育一筋に歩み続け、現在短期大学、高校、幼稚園を擁して114年を迎えている。

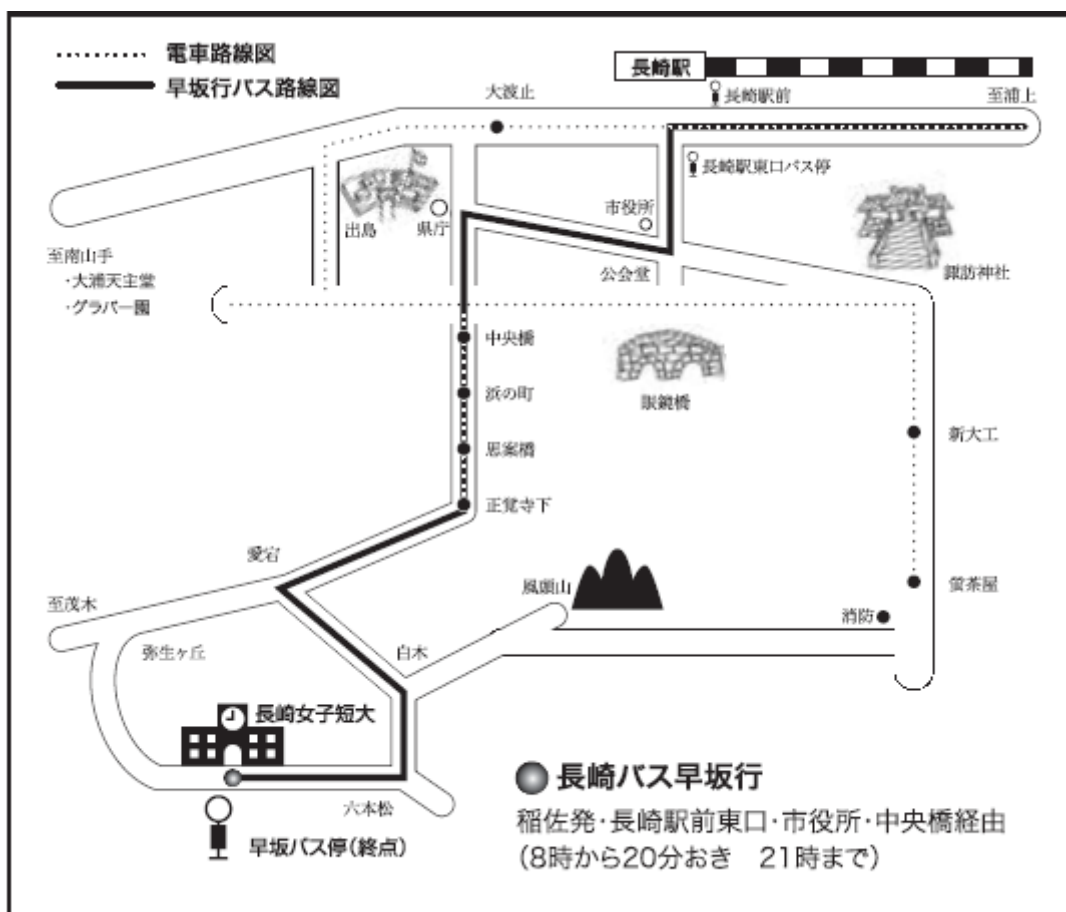
〈沿革〉

明治 29 年 10 月	笠原田鶴子	長崎女子学院を創立
昭和 26 年 3 月	原田アサ	学校法人鶴鳴学園初代理事長に就任
昭和 35 年 6 月	原田鶴代	第2代理事長に就任
昭和 41 年 4 月	原田鶴代	鶴鳴短期大学を設立
昭和 41 年 4 月	原田寅次郎	鶴鳴短期大学初代学長に就任
昭和 42 年 4 月		家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離増設
昭和 44 年 4 月		長崎女子短期大学と改称
昭和 45 年 4 月		家政科家政専攻を家政専攻と被服意匠専攻に分離増設
昭和 45 年 11 月	長岡達	第2代学長に就任
昭和 46 年 8 月	原田延介	第3代理事長に就任
昭和 48 年 4 月		幼児教育学科を増設
昭和 48 年 4 月		家政科を家政学科と改称
昭和 54 年 1 月		新学生寮（若竹寮）完成
昭和 54 年 4 月	原田慶子	学園長に就任
昭和 54 年 4 月	原田延介	第3代学長に就任
昭和 57 年 4 月		家政学科家政専攻被服意匠専攻を統合し生活文化専攻を設置
昭和 60 年 4 月	長谷川信	第4代学長に就任
昭和 63 年 4 月		家政学科を生活科学科に生活文化専攻を生活情報専攻に改組
平成 2 年 4 月	菊谷元資	第5代学長に就任
平成 7 年 4 月	中西弘樹	第6代学長に就任
平成 8 年 10 月		学園創立 100 周年
平成 9 年 4 月		学園内の2幼稚園を長崎女子短期大学附属第一、第二幼稚園と名称変更
平成 12 年 4 月	田中正明	第7代学長に就任
平成 13 年 4 月		生活科学科に生活福祉専攻を設置
平成 16 年 4 月		附属第一、第二幼稚園を統合し長崎女子短期大学附属幼稚園と改称
平成 18 年 3 月		第三者評価（認証評価）の初年度に「適格」評価
平成 20 年 4 月	江副功	第8代学長に就任

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

本学の所在地である長崎市は、世帯数18万9千、人口44万2千人で、長崎県の県庁所在地である。長崎県は、離島が多く人口の割りには経済圏が分散しているという、独特の地勢学的特徴を内包している県である。県内には、国立大学1、県立大学1、私立大学6、私立短期大学3が存在している。

長崎県の基幹産業は造船、水産業と観光であるが、地方都市での景気低迷は長期にわたり、回復の兆しはみえにくい。特に観光業は、ハウステンボスや長崎市内への観光者・宿泊者も減少しており、不況感はぬぐえない。しかし、懸案であった長崎新幹線の着工に目処が立ったことや2015年に長崎国体が開催されることが決定し、県全体の活性化に繋がることが期待されている。



(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、A L Oの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、T E L、F A X、E - M a i l等を記載して下さい。

〈理事長〉 原田 延介
 連絡先 Tel 095-826-6867 Fax 095-822-9753
 略 歴 昭和38年3月 早稲田大学第一政治経済学部卒業
 昭和38年4月 ㈱雄電社入社
 昭和43年1月 鶴鳴女子短期大学事務局次長就任
 昭和46年8月 鶴鳴学園理事長就任 現在に至る
 昭和54年4月 長崎女子短期大学学長 (～S60.3)
 平成16年4月 長崎女子高等学校校長 (～H18.3)

〈学 長〉 江副 功
 連絡先 Tel 095-826-5344 Fax 095-826-4772
 略 歴 昭和44年3月 大東文化大学大学院修了
 昭和40年4月 学校法人鶴鳴学園鶴鳴女子高校教諭
 平成 6年4月 同校校長
 平成10年4月 同学園長崎女子短期大学事務局長
 平成12年4月 同学教授兼事務局長
 平成15年4月 同学園常務理事
 平成20年4月 同学学長 現在に至る

〈A L O〉 下釜 綾子
 連絡先 Tel 095-826-5344 Fax 095-826-4772
 Eメール shimogama@nagasaki-joshi.ac.jp
 略 歴 昭和50年3月 日本体育大学卒業
 昭和50年4月 長崎女子短期大学助手
 昭和60年4月 同学講師
 平成15年4月 同学助教授
 平成19年4月 同学准教授 現在に至る

(4) 平成16年度から22年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（％）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（％）を次ページの表を例に作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

設置学科等の入学者数及び在籍者

(平成22年5月1日現在)

学科・専攻			16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
生活 科学 学科	食物栄養 専攻	入学定員	80	80	80	80	80	80	80
		入学者数	64	65	59	77	47	42	58
		入学定員充足率（％）	80	81	73	96	58	53	73
		収容定員	160	160	160	160	160	160	160
		在籍者数	117	128	122	135	119	88	100
		収容定員充足率（％）	73	80	76	84	74	55	63
	生活情報 専攻	入学定員	40	40	40	40	40	40	40
		入学者数	46	50	42	38	31	35	36
		入学定員充足率（％）	115	125	105	95	77	88	90
		収容定員	80	80	80	80	80	80	80
		在籍者数	87	98	92	79	68	66	70
		収容定員充足率（％）	108	122	115	98	85	83	88
	生活福祉 専攻	入学定員	40	40	40	40	40	40	40
		入学者数	41	42	39	30	32	28	19
		入学定員充足率（％）	102	105	97	75	80	70	48
		収容定員	80	80	80	80	80	80	80
		在籍者数	83	85	84	65	60	61	47
		収容定員充足率（％）	103	106	105	81	75	76	59
幼児教育 学科		入学定員	80	80	80	100	100	100	100
		入学者数	116	115	109	113	102	98	109
		入学定員充足率（％）	145	143	136	141	127	98	109
		収容定員	160	160	160	180	200	200	200
		在籍者数	234	231	223	222	221	202	207
		収容定員充足率（％）	146	144	139	123	110	101	104

5

(5) 平成19年度～21年度に入学した学生（この事項においては通信教育学科の学生を除く）の出身地別人数及び割合（10程度の区分）を下表を例に毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

地域	19年度		20年度		21年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
長崎	240	93.0	205	96.6	194	95.5
福岡	0	0	1	0.5	2	1.0
佐賀	1	0.4	0	0.0	1	0.5
熊本	7	2.7	4	1.9	2	1.0
大分	1	0.4	0	0.0	1	0.5
宮崎	2	0.7	1	0.5	0	0.0
鹿児島	3	1.2	0	0.0	0	0.0
沖縄	1	0.4	0	0.0	3	1.5
その他	3	1.2	1	0.5	0	0.0

6

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ下表を例に平成22年5月1日時点で作成して下さい。

学校名	所在地	入学定員	収容定員	在籍数
長崎女子高等学校	長崎市上小島1丁目11番8号	170	510	429
長崎女子短期大学 附属幼稚園	長崎市弥生町19番地2号		245	109

7

(7) その他

評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

食物栄養専攻は平成20・21年度と定員充足率が低いですが、本学の募集圏内を俯瞰すると、未だ需要があるものと判断した。同専攻の教育力・評価をあげるべく、教員協働精神の下、一丸となって取り組んでいる。文部科学省特色GPへの取り組み、公開・開放講座等にも積極的な取り組みがみられる。今後に期待するところであるが、定員は暫時今のままとする。

生活福祉専攻でも、平成20・21年度と定員充足率が低下しているが、3K、4Kなどといわれ、風評被害の感さえある。また、この資格だけで、短大卒の学歴はいらないと

するものも多く、専門学校へ流れているのも事実である。短大としての教養教育も施し、専門学校卒には見られない、心身共に健康で豊かな知識・技能をもつ介護福祉士を輩出したい。なお、非学士課程の学生の受け入れも検討することにした。

《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の記述及び資料等について

【建学の精神、教育理念について】

8

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

「鶴九臯に鳴いて声天に聞こゆ」(中国古典「詩経」小雅篇)これが、学校法人鶴鳴学園の「建学の精神」である。

明治29年(1896)創立者笠原田鶴子によって、本学が創設された時に、精神的な核として設定されたのが「建学の精神」である。爾来114年間、本学教育の根底を貫いている心の支えである。

教育における精神性の鮮明化は、創立100周年記念事業の一環として発刊された「鶴鳴百年史」により一層の努力がなされた。平成10年より開始された系列校(長崎女子高等学校)新校訓設定の動きの中で「建学の精神」の時代に応じた新しい解釈がなされた。

それは、町中(市井)に人知れず生き続け、地味だが地を這うようにして、誠実に生きている人は、深い谷間で鳴く鶴の声がやがて天の高みまで響くように必ず人々から高く評価されるようになる。

この具体的解釈を、より明確にするため、建学の精神の現代的解釈を要約的行った。「至誠天に通ず」→「深い誠実な生き方」→「至誠」

短大に於ては創設時の昭和41年、二代目理事長原田鶴代、初代学長原田寅次郎は、短大創立に当たり、創立者笠原田鶴子の意を体し、短大の理念として建学の精神「尽心・創造・実践」を制定した。即ち、事を為すに当たっては、常に己の誠を尽くし、古き慣習にとらわれず、より良きもの、より高きものを創生することに努め、亦之れを単なる理念に止どめることなく実践することを願ったものである。

平成13年、建学の精神の見直しに着手し、検討した結果、短大の建学の精神も、学園の建学の精神と同一であるべき、という結論を得、「学訓」とすることとした。新たに「建学の精神」・「学訓」・「教育目標」・「実践目標」の流れを整序し、新しい解釈を施した。(カレッジライフp.2)

9

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神・学訓・教育目標・実践目標の浸透を図るため、各学科・専攻の教育目標を設定し、その目標実現を目指し、各学科・専攻での教育が実践されている。

これらが全ての領域で機能するための手立てとして、次の資料・諸機会を意識的に活用している。

- ・入学式式辞
- ・人間教養講座「現代社会と女性」
- ・年度当初の全教職員会
- ・チューターミーティング
- ・学友自治会活動・支援
- ・学科専攻別オリエンテーション・ガイダンス
- ・ホームページ
- ・定例運営委員会

- ・ カレッジライフ
- ・ 学報「グリッター」
- ・ 各教員の担当授業
- ・ 定例教授会
- ・ F D 研修会
- ・ S D 研修会

【教育目的、教育目標について】

10

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本学の教育目標は学則第1条の目的と照応するものである。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

食物栄養専攻では、実社会で役に立つ実践力を備えた栄養士及び食に関する専門家を養成する。そのために、食育の考えを基礎とし、実験や実習を充実させた教育をめざす。

〈生活科学科生活情報専攻〉

生活情報専攻では、情報化社会に対応し、地域社会に貢献する有為な人材を養成する。そのために、広く教養を高め、情報活用能力を育成する教育をめざす。

〈生活科学科介護福祉専攻〉

介護福祉専攻では、幅広い知識と技術を身につけた介護福祉士を養成する。そのために、人間の生活を理解し人権尊重を重視した教育をめざす。

〈幼児教育学科〉

幼児教育学科では、子どもの成長発達を促し、地域に貢献できる保育者を養成する。そのために、子どもを取り巻く環境に対応できる専門知識や技術を習得する教育をめざす。

11

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどういう方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

学生や教職員に対しては、建学の精神・教育理念や教育目標の周知と同様な方法で、学生や教職員への周知を図っている。また、学外者に対しては、入学式や卒業証書・学位記授与式での学長式辞や、ホームページ、各種印刷物、高校や関係団体への学長あいさつ文等のあらゆる機会に公表している。

【定期的な点検等について】

12

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈の見直しについては定期的には行っていない。教育目標については、毎年、年度当初に学長が点検を行い、実践目標として全教職員及び学生に伝えている。今後は、建学の精神や教育理念をどう具現化していくかについて、運営委員会で点検・見直しを行い、教授会において全学的視点で審議を行い、理事会の承認を経て実行に移される。

13

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

見直し、点検、周知等の実施について改正が必要な場合は、運営委員会で検討した上で、教授会に諮り、理事長の諮問機関である学園合同会議を経た後、理事会の承認を経て実行されることとなる。

〈構成員〉理事長、学園長、副理事長、短大学長、高校長、幼稚園長、高校副校長
法人本部長、高校教頭、短大事務長、高校事務長

【特記事項について】

14

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

毎年度、本学教育の4つの目標（建学の精神・学訓・教育目的・実践目標）の浸透と深化を図るため、学長が新年度基本方針を、教職員会（教授・准教授・講師・助手・事務職員・用務員）で提示する。平成21年度の基本方針は、次のとおりである。

〈平成21年度 基本方針〉

1. 短大の精神性 …………… 確立—継承—深化へ
2. 教員・職員のますますの連携 …… FD研修、SD研修、F・SD研修の活性化を
3. コミュニティカレッジとしての存在感の確立
 優秀な人材の養成→地元へ還元
 就職率up作戦
 教育の質の保証と退学者数のジレンマ→導入教育の実施

4. 学生第一主義を標榜する為の具体的施策

チューターの相談力・指導力の強化

(退学者・休学者の減少＝目標5%未満)

授業強化(教授法・非常勤講師)→常に自己点検を

カリキュラムの再検討→本学の特色の鮮明化

マナー向上運動

学友自治会活動への支援と指導

公開講座・開放講座の充実→平常授業へ導入

社会人入学生への支援→10名入学

5. 長崎女子高等学校他高校との連携強化

体験学習の充実、出前講座や進路講話等への

積極的参加

6. 募集活動の強化

7. 奈良佐保短期大学との相互評価実施年

評価に値する学校創りへの邁進

15

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

<添付資料>

I-1 長崎女子短期大学 2011学校案内・

I-2 長崎女子短期大学 学報「グリッター」

I-3 COLLEGE LIFE 2010

I-4 平成22年度 学生生活のしおり

《Ⅱ 教育の内容》の記述及び資料等について

【教育課程について】

16

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
基礎科目	現代社会と女性	○			2		○			85 (2)	
	生涯学習論	○				2	○			41 (1)	
	現代社会の心理学	○				2	○			2 (1)	
	日本文化概論	○				2			○	38 (1)	
	音楽概論	○				2	○			7 (1)	
	書道概論	○				2	○			20 (1)	
	美術概論	○				2			○	22 (1)	
	ヒトと生物	○				2			○	36 (1)	
	経済学	○				2			○	19 (1)	
	日本国憲法	○				2			○	6 (1)	
	生涯スポーツ		○			2			○	30 (1)	
	英語		○			2	○			32 (1)	
	本学他学科・専攻専門科目									—	
	県内大学・短大単位互換科目									—	
専門教育科目	栄養士の科学	○				2	○			39 (1)	
	長崎食育学			○	1		○			42 (1)	
	情報処理演習		○			1	○			39 (1)	
	公衆衛生学	○			2		○			43 (1)	
	社会福祉概論	○				2	○			43 (1)	
	健康管理概論	○				1	○			38 (1)	
	解剖生理学	○				2			○	40 (1)	
	解剖生理学実習			○		1			○	43 (2)	
	生化学Ⅰ	○			2		○			39 (1)	
	生化学Ⅱ	○				2	○			44 (1)	
	生化学実験			○		1	○			43 (2)	
	運動生理学	○				1			○	42 (1)	
	病理学	○				1			○	42 (1)	
	食品学Ⅰ(食品成分の科学)	○			2		○			44 (1)	
	食品学基礎実験			○		1	○			45 (2)	
	食品学Ⅱ(食品の機能)	○				2	○			40 (1)	
	食品学実験(調理科学含む)			○		1	○			45 (2)	
	食品加工学(機能論含む)	○				2	○			43 (1)	
	食品加工学実習			○		1	○			42 (2)	
	食品衛生学	○			2		○			38 (1)	
	食品衛生学実験			○		1	○			38 (2)	
	栄養学Ⅰ(基礎栄養学)	○			2		○			42 (1)	
	栄養学Ⅱ(ライフステージと栄養)	○				2	○			39 (1)	
	応用栄養学実習			○		1	○			39 (2)	
	臨床栄養学Ⅰ(病態の理論)	○			2		○			40 (1)	

〈生活科学科食物栄養専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	臨床栄養学Ⅱ(食事療法の原理)	○				2	○			42 (1)	
	臨床栄養学実習			○		1	○			42 (2)	
	公衆栄養学	○			2		○			43 (1)	
	栄養教育指導論Ⅰ	○			2		○			43 (1)	
	栄養教育指導論実習Ⅰ			○		1	○			39 (2)	
	栄養教育指導論Ⅱ	○				2	○			40 (1)	
	栄養教育指導論実習Ⅱ			○		1	○			42 (2)	
	給食経営管理論	○			2		○			42 (1)	
	給食経営管理論実習Ⅰ			○		1	○			39 (2)	
	給食経営管理論実習Ⅱ			○		1	○			23 (2)	
	学外実習総合演習		○			1	○			42 (1)	
	学外実習Ⅰ			○		1	○			41	
	学外実習Ⅱ			○		1	○			40	
	調理学(調理実験を含む)	○			2		○			42 (1)	
	調理学実習Ⅰ			○	1		○			42 (2)	
	調理学実習Ⅱ			○		1	○			39 (2)	
	調理学実習Ⅲ			○		1	○			42 (2)	
	卒業研究		○		4		○			43 (5)	

〈生活科学科生活情報専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
基礎科目	現代社会と女性	○			2		○			64 (2)	
	生涯学習論	○				2	○			25 (1)	
	現代社会の心理学	○				2	○			16 (1)	
	日本文化概論	○				2			○	34 (1)	
	音楽概論	○				2	○			12 (1)	
	書道概論	○				2	○			6 (1)	
	美術概論	○				2			○	5 (1)	
	ヒトと生物	○				2			○	21 (1)	
	経済学	○				2			○	28 (1)	
	日本国憲法	○				2			○	0	
	生涯スポーツ		○			2			○	25 (1)	
	英語		○			2			○	16 (1)	
	本学他学科・専攻専門科目									—	
	県内大学・短大単位互換科目									—	
専門教育科目	コンピュータ操作		○			1		○		16 (1)	
	情報処理論				2		○			34 (1)	
	情報検索					2	○			30 (1)	
	情報科学					2	○			35 (1)	
	プログラミング		○			1	○			22 (1)	
	データの科学					2	○			28 (1)	
	データの科学演習		○			1	○			2 (1)	
	コンピュータネットワーク概論				2		○			35 (1)	
	日本語表現				2			○		28 (1)	
	スピーチコミュニケーション					2			○	35 (1)	
	比較文化 1		○			1	○			34 (1)	
	比較文化 2		○			1	○			32 (1)	

〈生活科学科介護福祉専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	ビジネス文書作成1		○		1		○			35 (1)	
	ビジネス文書作成2		○			1	○			34 (1)	
	ビジネスデータ活用1		○		1		○			35 (1)	
	ビジネスデータ活用2		○			1	○			34 (1)	
	時事研究				2				○	35 (1)	
	社会心理学				2		○			29 (1)	
	秘書概論				2		○			35 (1)	
	秘書実務 1		○		1		○			34 (2)	
	秘書実務 2		○		1		○			29 (2)	
	事務管理				2				○	29 (1)	
	会計学					2			○	16 (1)	
	マナー学		○		1		○			34 (2)	
	キャリアアップセミナー1		○		1		○			35 (1)	
	キャリアアップセミナー2		○		1		○			29 (1)	
	卒業研究		○		4		○			29 (6)	
	単位互換					4				—	
	ウェブデザイン		○		2		○			13 (1)	
	ウェブデザイン演習 1		○		1		○			13 (1)	
	ウェブデザイン演習 2		○		1		○			12 (1)	
	ウェブプログラミング		○		2		○			13 (1)	
	カラーコーディネーティング				2		○			20 (1)	
	CG入門				2		○			25 (1)	
	インテリアデザイン演習		○		1		○			27 (1)	
	マルチメディア演習		○		1		○			28 (1)	
	データベース演習 1		○			1	○			22 (1)	
	データベース演習 2		○			1	○			3 (1)	
	システム管理論					2	○			24 (1)	
	インターンシップ			○		2				0	
	公衆衛生学				2			○		25 (1)	
	医学入門				2				○	25 (1)	
	薬学・衛生学				2			○		24 (1)	
	医療管理学				2		○			29 (1)	
	医療事務論				2				○	25 (1)	
	医療事務実技			○	2				○	24 (1)	
	医療情報学					2	○			24 (1)	
	介護・救急法		○			1		○		24 (1)	
	臨床心理学				2		○			—	
	図書管理論					2	○			24 (1)	
	病院実習			○		2	○			16	
	オーラルイングリッシュ		○			1			○	3 (1)	
	ビジネスイングリッシュ		○			1	○			4 (1)	
	米語LL演習 1		○			1	○			14 (1)	
	米語LL演習 2		○			1	○			8 (1)	
	異文化間コミュニケーション論					2	○			28 (1)	
	TOEIC特講 1		○			1	○			6 (1)	
	TOEIC特講 2		○			1	○			5 (1)	
	エアライン特講 1		○			1			○	9 (1)	
	エアライン特講 2		○			1			○	10 (1)	
	介護・救急法		○			1		○		24 (1)	
	海外短期留学			○		4	○			3 (1)	

〈生活科学科介護福祉専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
基礎科目	現代社会と女性	○			2		○			60 (2)	
	生涯学習論	○				2	○			—	
	現代社会の心理学	○				2	○			16 (1)	
	日本文化概論	○				2			○	11 (1)	
	音楽概論	○				2	○			6 (1)	
	書道概論	○				2	○			—	
	美術概論	○				2			○	6 (1)	
	ヒトと生物	○				2			○	33 (1)	
	経済学	○				2			○	1 (1)	
	日本国憲法	○				2			○	—	
	生涯スポーツ		○			2	○			33 (1)	
	英語		○			2			○	0	
	情報処理演習		○			2		○		33 (1)	
専門教育科目	人間の尊厳と自立	○			2		○			28 (1)	
	人間関係とコミュニケーション	○			2		○			28 (1)	
	生活と福祉	○			2		○			28 (1)	
	障害者の福祉	○			2				○	28 (1)	
	介護を支える制度	○			2		○			—	
	社会保障制度	○			2				○	—	
	介護の基本Ⅰ-1	○			2		○			28 (1)	
	介護の基本Ⅰ-2	○			2		○			28 (1)	
	介護の基本Ⅰ-3	○			2		○			28 (1)	
	介護の基本Ⅱ-1	○			2		○			—	
	介護の基本Ⅱ-2	○			2		○			—	
	介護の基本Ⅱ-3	○			2		○			—	
	コミュニケーション技術A		○		2		○			28 (1)	
	コミュニケーション技術B		○		2		○			—	
	生活支援技術A		○		2		○			28 (2)	
	生活支援技術B		○		2		○			28 (2)	
	生活支援技術C		○		2		○			—	
	生活支援技術D		○		2				○	28 (1)	
	生活支援技術E-1		○		1				○	—	
	生活支援技術E-2		○		1				○	—	
	レクリエーション理論	○				2	○			28 (1)	
	レクリエーション技術		○			2	○			28 (1)	
	レクリエーション現場実習		○			1				33	
	歌唱実技		○			2			○	33 (1)	
	手話講座		○			3			○	—	
	介護過程Ⅰ		○		1		○			28 (1)	
	介護過程Ⅱ		○		1		○			28 (1)	
	介護過程Ⅲ		○		2		○			—	
	介護過程Ⅳ		○		1		○			—	
	介護総合演習Ⅰ		○		1		○			28 (1)	
	介護総合演習Ⅱ		○		1		○			28 (1)	
	介護総合演習Ⅲ		○		1		○			—	
	介護総合演習Ⅳ		○		1		○			—	
	介護実習Ⅰ			○	1		○			28	
	介護実習Ⅱ			○	2		○			28	
	介護実習Ⅲ			○	2		○			33	
	介護実習Ⅳ			○	2		○			33	
	介護実習Ⅴ			○	3		○			33	
	発達と老化の理解Ⅰ	○			2		○			28 (1)	

〈生活科学科介護福祉専攻教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	発達と老化の理解Ⅱ	○			2		○			28 (1)	
	認知症の理解Ⅰ	○			2		○			28 (1)	
	認知症の理解Ⅱ	○			2		○			—	
	障害の理解Ⅰ	○			2		○			28 (1)	
	障害の理解Ⅱ	○			2		○			—	
	こころとからだのしくみⅠ	○			2		○			28 (1)	
	こころとからだのしくみⅡ	○			2		○			28 (1)	
	こころとからだのしくみⅢ	○			2		○			28 (1)	
	医学一般	○			2				○	33 (1)	
	キャリアアップセミナー		○			3	○			—	

〈幼児教育学科教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
基礎科目	現代社会と女性	○			2		○			199 (2)	
	生涯学習論	○				2	○			100 (1)	
	現代社会の心理学	○				2	○			1 (1)	
	日本文化概論	○				2			○	86 (1)	
	音楽概論	○				2	○			58 (1)	
	書道概論	○				2	○			43 (1)	
	美術概論	○				2			○	13 (1)	
	ヒトと生物	○				2			○	3 (1)	
	経済学	○				2			○	0	
	日本国憲法	○				2			○	99 (1)	
	体育講義	○				1	○			98 (3)	
	体育実技			○		1	○			98 (3)	
	英語		○			2			○	99 (3)	
	本学他学科・専攻専門科目									—	
	県内大学・短大単位互換科目									—	
専門教育科目	情報科学	○				2	○			97 (3)	
	教育原理	○			2		○			98 (1)	
	保育原理Ⅰ	○				2	○			99 (1)	
	保育原理Ⅱ	○				2	○			94 (1)	
	保育者論	○				2	○			98 (1)	
	教育史	○				1	○			100 (1)	
	社会福祉	○			2		○			99 (2)	
	社会福祉援助技術		○			2	○			101 (2)	
	児童福祉	○				2		○		98 (1)	
	養護原理	○				2	○			98 (1)	
	発達心理学	○			2		○			98 (1)	
	教育心理学	○			2		○			99 (1)	
	臨床心理学	○				2	○			101 (1)	
	小児保健Ⅰ	○			2				○	98 (1)	
	小児保健Ⅱ	○				2			○	99 (1)	
	小児保健実習			○		1			○	99 (2)	
	小児栄養演習		○			2			○	99 (2)	
	精神保健	○				2			○	99 (1)	
	家族援助論	○				2	○			99 (1)	
	保育内容総論		○		1		○			98 (2)	

〈幼児教育学科教育課程〉

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位		教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	保育内容(健康)		○		1		○			98 (2)	
	保育内容(人間関係)		○		1		○			101 (2)	
	保育内容(環境)		○		1		○			98 (2)	
	保育内容(ことば)		○		1		○			94 (2)	
	保育内容(表現)		○		1		○			98 (2)	
	乳児保育		○			2			○	98 (2)	
	障害児保育		○			1	○			99 (2)	
	養護内容		○			1	○			98 (2)	
	保育方法論	○				1	○			100 (1)	
	指導法の研究		○			2	○			95 (2)	
	遊びの文化(指導法)		○			1	○			94 (2)	
	運動遊びの実践(指導法)		○			1	○			67 (2)	
	動きのリズム(指導法)		○			1	○			98 (2)	
	子どもの絵と製作(指導法)		○			1			○	89 (2)	
	幼児音楽(指導法)		○			2	○			98 (2)	
	国語表現法	○			2		○			98 (1)	
	図画工作		○		2				○	98 (2)	
	幼児体育		○		2		○			101 (3)	
	うたと表現		○			1	○			71 (2)	
	ヴォイストレーニング		○			1	○			29 (2)	
	音楽Ⅰ		○		2		○			98 (3)	
	音楽Ⅱ		○			2	○			100 (3)	
	教育実習			○		5	○			97	
	保育実習Ⅰ			○		5	○			97	
	保育実習Ⅱ			○		2	○			97	
	保育実習Ⅲ			○		2	○			6	
	保育・教職実践演習		○			2	○			—	
	総合演習		○			2	○			101 (2)	
	卒業研究		○		4		○			101(11)	
	レクリエーション理論	○				2		○		60 (1)	
	レクリエーション実技			○		1	○			54 (2)	
	レクリエーション現場実習			○		1				53	

17

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

教養教育は「人間教養科目」として選択必修14単位を設定している。できるだけ幅広い分野の科目を履修できるように「現代教養」「芸術」「一般教養」に分けている。

特に、有為で自立する女性の育成にかかわる科目として、2年間に15回開講される「現代社会と女性」は卒業必修とし、毎回講師を変えるオムニバス形式をとっている。毎回の講義終了後にはレポートを課しており、その教育効果として文章力の向上が認められている。また、学外講師による講義もあることから、静聴の姿勢や受講態度などの向上が認められ、社会人になるための素養が涵養されている。今後、社会における関わりや自助および公助に至る過程を理解する福祉関係の教養科目について検討も必要であると考えている。なお、マナー教育の訓練の場としても捉え、外部からの講師の際はスーツ着用とし、メリハリをつけるよう指導している。

18

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格は以下のとおりである。

学科	専攻	取得可能免許・資格
生活科学科	食物栄養専攻	栄養士免許、社会福祉主事任用資格
	生活情報専攻	情報処理士資格、秘書士資格、ウェブデザイン実務士資格、病歴記録管理士(初級)受験資格 医療管理秘書士受験資格 日本赤十字社救急法救急員資格
	生活福祉専攻	介護福祉士資格 レクリエーション・インストラクター資格、日本赤十字社救急法救急員資格、社会福祉主事任用資格
幼児教育学科		幼稚園教諭二種免許、保育士資格、レクリエーション・インストラクター資格、社会福祉主事任用資格

また、教育課程に関係なく取得する機会を設けている免許・資格は以下のものがある。

学科	専攻	取得可能免許・資格
生活科学科	食物栄養専攻	
	生活情報専攻	日商PC検定、ITパスポート試験、マイクロソフト認定資格、カラーコーディネーター検定、秘書技能検定、TOEIC、実用英語技能検定
	生活福祉専攻	福祉住環境コーディネーター資格
幼児教育学科		

教育課程外の免許・資格については、教員が検定試験受験の支援を行っている。

19

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

カレッジライフには、約20ページにわたって授業科目の履修についての説明が掲載

されており、それぞれの学科・専攻で免許・資格に必要な科目の一覧表を載せている。

入学時オリエンテーションはもとより各学期の初めには授業時間割表やカレッジライフを用いたガイダンスを行い、履修指導を行っている。各学科・専攻でもさらに詳しい履修指導を行い、学生が理解しやすいように工夫している。

時間割上での工夫については、専門科目と選択科目ともに1年次には学生としての基礎を固めるための科目を重点的に配置し、2年次には社会に出るための科目、いわゆる学外実習に直結する科目を配置し、実学を重視した構成となっている。

基礎科目(教養科目)は選択必修科目が多いことから、できるだけ多く履修できるよう時間割り編成に工夫を加えたい。

20

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件（必修単位の修得、学生納付金の納付等）を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業要件単位数は学則第30条に記載されている。

第30条 本学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、次の単位を修得しなければならない。

学 科	専 攻	基礎科目	専門教育科目	合 計
生活科学科	食物栄養専攻	14単位以上	48単位以上	62単位以上
	生活情報専攻		56単位以上	70単位以上
	生活福祉専攻		73単位以上	87単位以上
幼児教育学科			48単位以上	62単位以上

その他の卒業要件として試験に関する規程第3条に受験資格の記載がある。

第3条 学生は、学年及び学期の始めに履修する授業科目を届出（履修届）、各教科担当教員より履修の承認を受けた授業科目について受験することができる。

ただし、次の各号の1つに該当するものには、受験資格を認めない。

- (1) 授業科目担当教員より履修の承認を受けていない者。
- (2) 欠席時数が授業時数の3分の1を越える者。
- (3) 授業料を納入していない者。
- (4) その他教授会において、受験資格喪失を決議された者。

このように、卒業するには基礎科目と専門教育科目を定められた単位数以上取得する必要がある。なお、授業料の未納がある場合には定期試験の受験を制限し、単位の認定を保留している。

以上の卒業要件については、入学時オリエンテーションにおいて、学生及び保護者に「学生生活のしおり」を配布し、説明することにより周知を図っている。

さらに、学期末ガイダンスやチューター面談を利用して、学生にも周知をしている。

21

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。

毎年、各学科専攻において教育課程の見直し、改善を行っている。

食物栄養専攻では、栄養士のコアカリキュラムを意識した教育内容によって、授業の充実を図っている。さらに現在の取り組みを充実させるための組織作りが整備されてきたので、総括と点検を繰り返しながら学生の自立支援ができればと考えている。

生活情報専攻では、卒業生アンケートで医療事務コースの充実を望む意見があったため、平成20年度入学生より、医療事務コースで医事管理士に代わって病歴記録管理

士（初級）資格取得を目的として、カリキュラム改訂を実施した。22年度は医療事務コースでの病歴記録管理士の完成年度となったが、学生にとっては、専任教員の科目が増えただけとの印象が強い。また、一部授業が終了していない2年生後期中に認定試験が実施される問題があり、認定試験の時期に合わせるよう、授業で取り上げるテーマの順序を調整する必要がある。

さらに平成20年度より航空ビジネスユニットの科目が新規に開設された。しかし、純粋に航空業界を目指す学生は少数であり、踏み込んだ指導がしづらい状況であった。そこで、平成21年度は航空業界に特化した追加講座を実施した。

一方では情報ビジネスコース履修者の減少傾向が続いており、情報処理士、ウェブデザイン実務士の魅力が薄れてきている。情報処理関連科目の対策については、専攻名の変更をも含めた新カリキュラム編成の導入について、平成23年度を目標に検討を行っている。

生活福祉専攻では、平成19年度までは、卒業研究とケーススタディ研究を同時に行っていたが、2年次の長期の介護実習とも重なり、学生の過大な負担となっていたため、平成20年度は卒業研究を取りやめ、ケーススタディ研究のみを行った。また、介護福祉士養成施設指定基準の改正により、平成21年度から従来の科目別編成とは全く異なる新しいカリキュラムが実施されることになり、平成20年度前半には、専攻教員でカリキュラム・シラバスの検討に多くの時間を費やした。

平成21年度入学生から新カリキュラムを実施したが、カリキュラム編成、担当教員等について調整が必要な点や、本学独自の特色ある科目設定をおこなう必要があるため、カリキュラムの変更を行い、平成22年度に反映させることとした。

平成22年度からカリキュラム、担当教員の一部変更を行い、さらに「手話講座」を新設した。

幼児教育学科では、平成19年度より新入生の音楽の基礎知識の不足対策として「音楽基礎ゼミナール」を実施し、今年度も引き続き対象学生に実施した。また、国語力の低下対策として、今年度から「国語表現法」を必修科目とした。

免許法改正に伴い、平成22年度入学生対象の『保育・教職実践演習』の授業科目を立ちあげた。複数の教員で講義するため、この科目内容の検討を随時実施し、教員間の意思疎通を図りながら研修を重ねていく。

【授業内容・教育方法について】

22

（１）シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

シラバスは、必修選択の別、単位数、授業のねらい、成績評価方法などを記載し、学生が授業をイメージしやすいようにしている。また、平成22年度より成績評価の具体的配点バランスなども明記するようにした。授業計画は15回の授業の流れが把握できるようにできるだけ具体的に記載し、教員からのメッセージの欄を設けて受講時のアドバイスも伝えることができるよう工夫をしている。また、最初の授業には必ずシラバスを用いた授業計画を学生に説明し、履修計画に役立てている。

23

（２）学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

入学時、茶髪、ピアス、化粧など食品衛生の意識が低い学生が存在するが、チューター面談、個別教育懇談、ガイダンスなどで指導することにより変化している。2年生になると、上記のような外観の学生はかなり減少しており、これらは就職活動の様子や実績からもうかがい知ることができる。

〈生活科学科生活情報専攻〉

卒業生アンケート（平成20年度分）によれば、「試験時期は勉強するが、普段はほとんどしなかった」41.4%、「勉強は気にせず、マイペースで過ごした」6.9%と回答している。これは、本専攻に就職に必須の免許・資格が無いことも関係していると思われる。また、時間割によって選択科目の履修者数が左右されるケースもあり、各種ガイダンスやチューターとの面談において履修指導を行い、学業意欲を喚起している。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

多くの学生が、2年次になると実習などを経験し、履修態度、意欲も良くなっている。しかし、学生間の格差が広がっており、特に、1年次には、基本的な態度、学習能力が身につけていない。授業や実習についていけない学生もおり、個別のニーズに対応できるような体制が必要である。専攻内に設置している「介護教育研究会」で実施している学生の自己評価、成績評価の推移などをもとに、きめ細かな個別対応を実施していきたい。

〈幼児教育学科〉

多くの学生が、幼稚園免許・保育士資格を取得するという目的意識をもって入学し、受講態度、受講意識等において努力している姿が見られる。しかし、努力不足により単位修得が出来ない学生も出てきている。保育者になるという自覚を授業や実習オリエンテーション等で具体的に考え、学ぶ機会を与えるなど心がけている。また、卒業後の「科目履修制度」も視野に入れ、必要な学生には、時間をかけて目的が達成できるように対応をしている。今後も続けていきたい。

【教育改善への努力について】

24

（1）学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

毎学期、最終授業の際に授業アンケートを無記名で行っている。アンケートはマークシート方式の質問15項目と自由記述からなっている。

集まったアンケートは事務局にて集計し、当該教員へその集計結果を伝え、授業改善に役立てている。

さらに、卒業時にも2年間の短大生活や学業についてのアンケートをとっている。平成21年度の集計結果では、授業科目、カリキュラムおよび授業内容について、「満足・ほぼ満足」と答えているものは60%弱であった。「どちらともいえない」と答えているものは30%台であり学科・専攻によって偏りがある。今後、授業アンケートの十分な活用を検討し、学生が満足できる授業の構築に向けて努力したい。

25

（2）短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

授業改善については、毎年3月にFD研修会を開催していたが、平成21年度は改革評価委員会において企画立案され、学生の学士力育成をテーマに授業改善の取り組みについて研修を行った。具体的には2回のFDを実施し、学生の「自己管理能力」「問題解決力」「コミュニケーション力」育成のために教職員全員が課題を持って授業改善や学生に関わり、その結果をグループ討議という形式で各々が意見を述べる場を作った。今後は、これらを量的、質的データとして示せるように具体化していくことが課題であると思われる。なお、FD、SDの実施については、次年度から教務委員会で行い、取り組むこととなった。また、卒業時の学生に実施しているアンケート内容を見直し、授業改善の施策に反映させることができるよう取り組み始めたところである。

〈学長の受け止め〉

本学には、教員の研究室と別に、学科・専攻毎に授業準備室を設け、授業改善を含む諸問題について、教職員らが対応策を検討する場として活用されている。今後、相互授業参観、学生による授業評価の有効活用等、授業改善への取り組みが深化することを期待したい。

非常勤講師に対しては、学期の初めに、教員用教務マニュアルを配布し、授業充実に向けて意識を喚起している。今後も継続して、本学の授業改善への取り組みについて努力していきたい。

26

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

教員間の意思の疎通に関しては、専攻会議において確認と検討を繰り返している。ので特に問題はないと考えている。

〈生活科学科生活情報専攻〉

専任教員間では、学内LANを利用したグループウェアを導入することにより、随時情報交換を行っている。また、専任教員による定例の専攻会議を毎週開催しているが、非常勤講師との意見交換は、定例化されていない。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

専門教育科目のうち、実技・演習科目は複数の専任教員の分担による授業が多く、教員間の意思疎通や協力体制は不可欠である。授業内容については、非常勤講師の分担を含め、シラバスの作成時に調整しているが、随時、専攻会議において、授業内容の周知や必要な調整を行っている。学生の情報の交換、専攻における課題の共有など、意思の疎通や協力体制は取れている。

〈幼児教育学科〉

定例の学科会議で必要事項の連絡調整を行いながら、日頃から教員間の意思疎通を図り、情報交換に努めている。学習面、生活面で問題ある学生などについては、チューターだけではなくそれぞれの教員が気付きなど必要に応じて報告しあい、多面的な学生支援を心がけている。毎年、年度当初行っていた音楽担当教員（専任、非常勤講師）の会議を平成21年度は年度当初と年度末に実施した。この中で、保育士の国家試験改訂に伴う現状について教員間の意志の疎通を図った。この会議を定例会議とし、学生の技術向上に向けた協力体制が取れるように取り組んでいきたい。

【特記事項について】

27

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取り組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

〈単位互換制度〉

平成13年度から始まった、長崎県内の全大学・短期大学が参加する単位互換制度「NICEキャンパス長崎」に参加している。この制度を利用して受講した学生には、基礎科目として2単位が認定される。また、生活情報専攻ではこの他に、専門教育科目として4単位までの認定が可能となるようカリキュラムを編成している。

〈習熟度別授業〉

生活情報専攻では、主にキーボード操作について入学時に学生個人の能力を判定し、初心者クラスと経験者クラスに分けて「ビジネス文書作成1」の授業を実施している。

〈インターンシップ〉

生活情報専攻では、平成14年度からインターンシップを実施しており、平成21年度は8名が2週間の実習を行った。また、医療事務の資格取得のための病院実習（医療事務実習）は平成9年度から実施しており、平成21年度は16名が実習に参加した。

〈海外短期留学制度〉

平成14年度よりオーストラリア国立モナッシュ大学への短期留学を実施している。この制度は異文化に対する認識を深め、海外の言語、文化、社会、芸術等に直に接することで見識を深めるとともに、実用英語運用能力を促進させ、国際化に即応できる能力の啓培を目的としている。平成20年度は第7期14名（生活情報専攻3名、食物栄養専攻3名、長崎大学生8名）が参加した。しかし、実施にあたり1教員に相当の負担がかかっている状況が続いてきたため、今後、留学先を含め運営を抜本的に見直すこととした。21年度は、新型インフルエンザの蔓延により実施を中止した。

28

（2）特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

I-3 COLLEGE LIFE 2010

Ⅱ-1 シラバス（授業要項）平成22年度入学生用

〈参考資料〉

Ⅱ-1 長崎女子短期大学2011入学案内

Ⅱ-2 COLLEGE LIFE 2010

Ⅱ-3 シラバス（授業要項）平成22年度入学生用

Ⅱ-4 単位互換制度NICEキャンパス長崎「単位互換履修生募集ガイド」2010年度版

Ⅱ-5 学生授業評価アンケート票及び結果

Ⅱ-6 卒業生意識調査票及び結果

《Ⅲ 教育の実施体制》の記述及び資料等について

【教員組織について】

29

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

長崎女子短期大学の専任教員数

(平成22年5月1日現在)

学科・専攻名	専任教員数				設置基準で定める教員数		助手	(ハ)	備考
	教授	准教授	講師	計	(イ)	(ロ)			
生活科学科									
食物栄養専攻	3	0	3	6	4	—	0	3	
生活情報専攻	2	2	2	6	4	—	0	0	
介護福祉専攻	2	0	3	5	4	—	0	0	
小計	7	2	8	17	12	—	0	0	
幼児教育学科	4	3	4	11	8	—	0	0	
人間教養	1	0	0	1	—	—	0	0	
合計	12	5	12	29	20	5	0	3	

30

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

31

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

本学には採用・昇任の選考規程が整備されており、最終的には理事会及び理事会を代表する理事長の承認を得て決定することになっている。採用については「公募」を原則とし、当該学科専攻教員への告知とホームページ掲載や関係教育機関への募集照会を行っている。本学で求める人材は、自己の研究のみを重視するのではなく、学生指導いわゆる「教育力」をも兼ね備えた教員である。昇任については、教員の資質として研究業績と共に学内外での活動成果をその判断材料としている。また、その時々短大全体のあるいは学科専攻の教員構成状況が影響してくる場合がある。

32

(4) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表

(平成22年5月1日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)							助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下	平均年齢		
合計29人	1人	10人	9人	7人	1人	1人	55.3歳	23.3歳	
割合	3%	35%	31%	25%	3%	3%			

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成20年度～22年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

4つの分野において大きな偏りはなく、意欲的に取り組んでいる。特に授業と学生指導に対しては積極的に取り組んでいる。本学のように実学系短大においては、研究の領域において、国際的活動を行うのは困難な状況にあるが、後述の教員の研究活動でも分かるように、一定の活動を行っているとは認識している。

専任教員の授業担当コマ数

	教員名	職名	20年度	21年度	22年度		教員名	職名	20年度	21年度	22年度
食物栄養	橋口 亮	教授	8	8	8	幼児教育	甲斐 晶子	教授	6.65	6.5	6.5
	和泉 喬	教授	7.25	7.25	7.25		中澤 伸元	教授	4.5	4.5	5
	矢島エイ子	教授	6.15	3.5	3.5		山崎 純男	教授	6	6	5.65
	藤尾 順子	講師	7.7	8.05	7.4		浦川 末子	教授			3
	山口ゆかり	講師	7	7	7		白石 景一	准教授	7	7	7
	古賀 克彦	講師	8.5	8.5	8.5		下釜 綾子	准教授	6.5	6.5	6.85
生活情報	森 弘行	教授	6	6.9	7.4		永野 司	准教授	7	7	7
	福岡 寛	教授	4.5	4.5	4		副島 雪子	講師	5.75	5.25	5.25
	吉村 宗司	准教授	5.5	5.5	5.5		中嶋 一恵	講師	5.5	5.5	5.5
	武藤 玲路	准教授	5.5	5.5	6		中村 浩美	講師	8.5	8.65	10.15
	濱口なぎさ	講師	5.5	5.6	5.6		中島健一郎	講師			5.5
	江頭 万里子	講師			4.5		池崎 善博	教授	5.25	5.15	
	奈良 望	准教授	5	5.5			小林 小夜子	准教授	5.5	5.5	
生活福祉社	長尾久美子	教授	5.6	5.5	4.15	人間栄養	江副 功	教授	1.5	1.5	1
	金松 敏信	教授	5.95	7	5.2		平均コマ数		5.78	6.15	5.87
	井手口弘明	講師	4.85	4.5	3.65						
	植木 明子	講師	6.75	8.7	6.4						
	田川 千秋	講師	7.25	7.75	7.8						
	林 直吉	教授	1								
	山口 松博	教授	1.55								

前期・後期の平均コマ数で表示しています。

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

実習助手は、食物栄養専攻において、管理栄養士有資格者2名と栄養士有資格者1名

の3名を配置している。副手、補助職員、技術職員は配置されていない。授業で教育機器を使用する場合、教務課の事務職員が対応している。それによって正常に機能し、授業は滞りなく実施されている。しかし、学外実習担当業務職員や情報メディア関係の専門技術職員も兼任のため、過重な負担をかけているのは否めない。将来においては、専任を配置したい。

なお、授業によっては1つの講座を2名で担当し、1名が主、もう1名が従（助手）となって授業の補助を行い教育効果を上げている。

35

(7) 2以上の校地（校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

【教育環境について】

36

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途（室名）、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

校舎・校地一覧表

（平成22年5月1日現在）

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
長崎女子短期大学	520人	4,650㎡	12,920㎡	8,270㎡	4,800㎡	50,896㎡	46,090㎡
計			12,920㎡			50,896㎡	

37

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

① 情報機器整備状況

設置場所	設備名	型式	数量	備考
第1情報演習室	PCClassRoom	Lenovo ThinkCentre	50	システムによる画像配信、環境復元機能付き
		Lenovo ThinkCentre (教卓用)	1	OS:Windows XP Professional アプリケーション:Microsoft Office XP IBMホームページビルダー BorlandJbuilder、trueSpace、 Visual Basic 2005 Express Edition
		カラーレーザープリンタ	1	
		モノクロレーザープリンタ	1	
第2情報演習室	パーソナルコンピュータ	IBM NetVista	45	電源投入時の設定自動復元機能付き OS:WindowsXp Professional アプリケーション: Microsoft Office XP、 BorlandJBuilder、trueSpace
		IBM ThinkCentre	6	
		カラーレーザープリンタ	1	
		大判プリンタ	1	
	サーバ	プライマリドメインサーバ	1式	IBM eServer 8646-5HJ (OS:Windows 2000 server)
		バックアップドメインサーバ	1式	IBM eServer 8648-PEW (OS:Windows 2003 server)
		ウェブサーバ、メールサーバ・DNSサーバ	1式	プロサイド BlueNet (OS:turbolinux appliance server)
		求人票データベースサーバ、グループウェアサーバ、ゲートウェイサーバ		IBM eServer 8482-2DJ (OS:Windows 2003 server)
LL教室	LLシステム	SONY LLC-9000	1式	

〈情報演習室と学内LAN〉

2号館2階にパーソナルコンピュータを設置した情報演習室が2室ある。情報演習室、教員研究室、短大事務局、学園本部事務局の機器は学内LANで接続されており、2号館一般教室、LL教室、記念ホールには情報コンセントが準備されている。また、無線LANアクセスポイントが2号館2階に3箇所と、4階記念ホール、1号館キャリア支援センターに設置されているが、セキュリティ対策のため、登録された機器のみを接続可としている。学内LANは、約3km離れた系列の長崎女子高等学校とも22Mbpsビル間無線LANで接続されている。インターネットへの接続は、ホームページおよび電子メールのサービス用に1Mbps光ファイバ専用線、学内からのインターネット接続用には100Mbps光ファイバの2系統となっている。

すべての教職員、学生に学内LANにログインするためのIDおよびメールアカウント

を発行している。ウェブサーバ・メールサーバは、本学だけでなく長崎女子高等学校のホームページ、高校教職員への電子メールサービスも提供している。

情報演習室は休日を含め21時まで利用可能であるが、生活情報専攻の教員が不在時のトラブル等には対応できていない。また、大量の印刷出力が放置されたり、私用での印刷に利用されたりと、用紙の無駄遣いが後を絶たなかったため、ユーザや部門別に印刷出力枚数を自動収集できる管理ソフトを導入し、用紙の使用量抑制に一定の効果をあげている。

②利用状況

情報演習室は、全学生の利用が可能である。学生は、レポート作成や卒業研究報告書、卒業研究発表会でのプレゼンテーション資料等を作成するために、空き時間や放課後などを利用して使用している。第1情報演習室の授業での利用状況は、前期13コマ、後期17コマ、第2情報演習室の授業での利用状況は、前期6コマ、後期7コマで、パソコンの台数などの理由から第1情報演習室の活用が多い。

LL教室の授業での利用状況は、前期5コマ、後期6コマである。

39

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

本学は免許・資格取得のための科目が多く、各学科・専攻で実験・実習に必要な機器・備品を多く保有している。年度当初に、各学科・専攻、教務委員会等より機器・備品の購入計画を提出してもらい、計画的に購入を行っている。その管理については、購入時に授業担当者と事務局で確認を済ませたのちに備品台帳に記載して、遺漏が無いようにしている。

なお、主な管理（設置）場所は以下のとおりである。

学科・専攻名	場 所
食物栄養専攻	化学実験室・機器室・調理実習室・集団給食実習室 食品加工実習室
	調理準備室
生活情報専攻	秘書実習室・LL演習室・専攻準備室
生活福祉専攻	介護実習室・入浴実習室・被服実習室・専攻準備室
幼児教育学科	ピアノ演習室・音楽室・音楽あそび室・自然あそび室 図画工作室
	小児保健実習室・体育館・フィットネスルーム・学科準備室
共通機器	133教室・141教室・142教室・221教室・231教室・記念ホール 事務局

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

1号館の一部（赤レンガ造り）は昭和60年の学園九十周年記念事業として、2号館（赤レンガ造り）は百周年記念事業として建設しているものの、それ以外の校舎は短大開学当時のものである。そのため、校舎の安全性を確保する意味で、平成17年に外壁の改修工事を行った。また、運動場は、平成8年の百周年記念事業で人工芝を敷設した。体育館は、建築後台風の被害にあうことが数度あり、随時、屋根や床の張替えを行ってきた。

また、本学には学生寮と隣接地に附属幼稚園を有しているため、日中はもちろん夜間の防犯体制の整備が必要であり、警備会社と契約し、これまでの管理状況の見直しを行った。さらに、短大校舎内の火災報知機も警備会社と連動させるとともに、万が一に備え消防署への直結電話を設置している。

障害者への対応については、1号館の入口には車椅子で出入りできるスロープが設置されているが、2号館には設置されていない。また、エレベーター設備や障害者対応のトイレも両館とも設置されていないことから、障害者の来学や入学に支障がある状況である。バリアフリーには多額の予算が必要となるが、年次計画で整備を図っていく。

学生の休息場所は両館の1階ロビーおよび食堂であるが、福利厚生面での設備も十分だとはいえず、拡充の必要があると感じている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

図書館の概要

面 積	座席数	予 算	司書数
598㎡	92席	3,610千円	2（常勤1・派遣1）

〈購入図書等選定システム〉

図書館長、各学科から選出された委員4名、司書1名、事務職員1名で構成される紀要図書委員会において、各学科専攻からの購入希望図書等の申し出を受け、予算を配分している。図書やAV資料の購入は、教員・学生からも随時受け付けており、各専任教員には毎年2～3万円分の図書選定を依頼している。また、書店の協力を得て図書館内に展示スペースを設け、学生・教職員に購入希望図書を選定してもらう企画も実施している。

定期購読雑誌については、紀要図書委員会において見直しを行った。

〈図書等廃棄システム〉

図書の廃棄は、「図書等廃棄規程」に則り選定し、紀要図書委員会の審議を経て学長の決済をうけている。平成21年度は、傷みの激しい文庫、改訂版が発行されている辞書等を中心に廃棄の承認を求めたが、蔵書数の減少となることから再考し、一部の

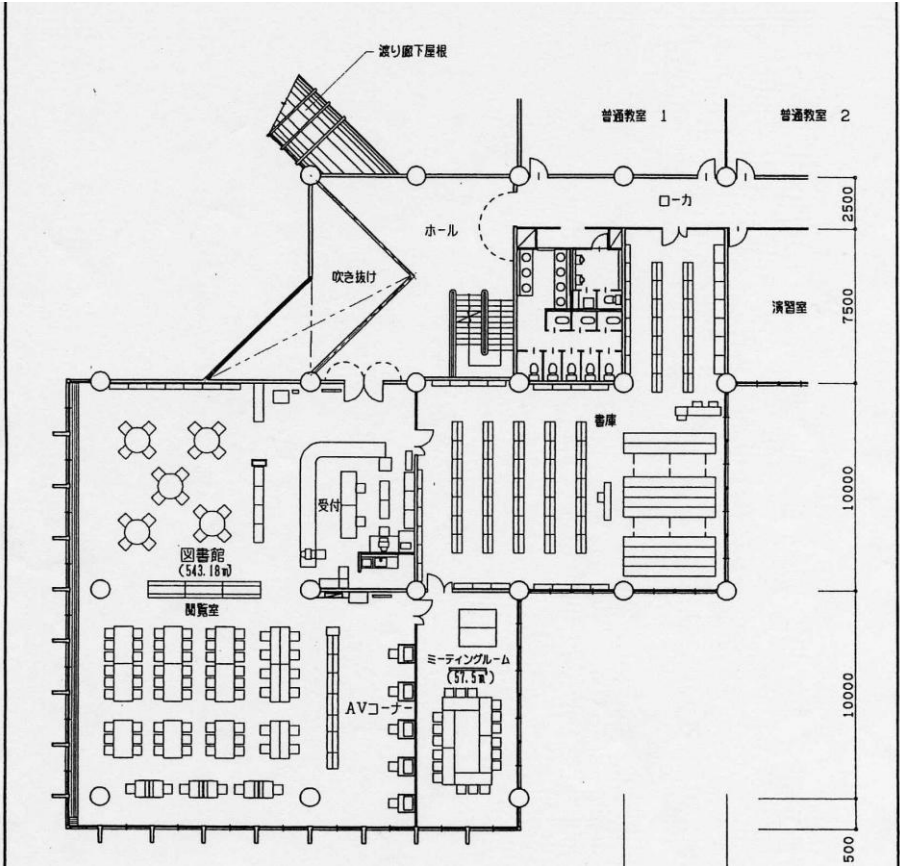
廃棄図書については施設への寄贈となった。

〈情報化の進捗状況〉

平成21年4月より登録済み図書について貸出業務の電子化を開始した。登録作業の効率化のため、未登録図書については館内閲覧のみとしたが、利用頻度が低いものを中心であったため、大きな混乱はなかった。常勤1派遣1で平常業務と並行して情報化作業を実施し、夏季休館中に臨時職員の応援を得て所蔵図書の登録作業がほぼ完了した。また、蔵書検索用のパソコンを図書館内に2台設置した他、情報演習室や研究室のパソコンからも検索可能となった。

AV資料に替えて電子ジャーナルの導入についても検討する。

〈全体の配置図〉



42

(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、A V資料数等）を下表を例に作成して下さい。

図書館等蔵書数一覧		(平成22年3月31日現在)		
区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料
冊（種）	41,787冊	2,485冊	69種	1,187点

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

図書館入館者数が平成20年度の22,307人に対し、平成21年度は13,359人、貸出冊数も12,201冊から6,014冊と大幅に減少した。本学図書館はブックディテクションシステムが設置されていないため手荷物の持ち込みを禁止している。ロッカーに手荷物を収納するのが面倒な学生が、図書館入口付近のベンチなどに手荷物を放置することが多く、その対策としてベンチを撤去した。また、学生ロビー・エントランスホールに学習机を設置したことで図書館で勉強する学生が減少したと考えられる。

他学図書館の図書館利用活性化策などを参考に対策を検討するとともに、平成22年度に紀要図書委員会で図書館利用についてのアンケート調査を実施することにした。

平成21年度より貸出返却処理が電子化されたことで、利用状況の把握が容易になったため、今後の図書選定に生かされることが期待される。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

図書館のホームページは、平成21年度より学内向けに公開し、新着図書や、蔵書検索のサービスを開始した。学外向けには設備、人員が整っておらず、公開時期は未定である。

長崎県大学図書館協議会、九州地区私立短期大学図書館協議会に加盟し、情報交換や意見交換などを行っているが、平成21年度は出席できなかった。長崎県大学図書館協議会が開催する県内大学・短大図書館共同の学術機関リポジトリ構築に向けての研修等には積極的に参加した。

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

- Ⅲ-1 教員の個人調書（①履歴書 ②教育研究業績書）
- Ⅲ-2 長崎女子短期大学教員選考規程
- Ⅲ-3 長崎女子短期大学教員資格審査委員会規則

- Ⅲ-4 長崎女子短期大学教員資格審査基準に関する内規
- Ⅲ-5 昇任審査申し合わせ
- Ⅲ-6 長崎女子短期大学特別専任教員規程
- Ⅲ-7 長崎女子短期大学非常勤講師に関する規程
- Ⅲ-8 長崎女子短期大学全体配置図
- Ⅲ-9 建物平面図等
- Ⅲ-10 長崎女子短期大学紀要図書委員会規程
- Ⅲ-11 長崎女子短期大学図書館利用規程
- Ⅲ-12 長崎女子短期大学図書館図書等除籍規程

《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》の記述及び資料等について

【単位認定について】

47

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。

なお、この表は平成21年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻の単位認定の状況表〉

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
基礎科目	現代社会と女性	講義	42	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%
	生涯学習論	講義	40	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	92.5%	2.5%	5.0%	0.0%
	現代社会の心理学	講義	2	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	日本文化概論	講義	41	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	92.7%	4.9%	2.4%	0.0%
	音楽概論	講義	9	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
	書道概論	講義	20	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	美術概論	講義	16	1	実技試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	93.8%	0.0%	6.3%	0.0%
	ヒトと生物	講義	36	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	55.6%	22.2%	22.2%	0.0%
	経済学	講義	20	1	定期試験	95.0%	5.0%	100.0%	65.0%	25.0%	10.0%	0.0%
	日本国憲法	講義	6	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%
	生涯スポーツ	演習	35	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	80.0%	11.4%	8.6%	0.0%
	英語	演習	24	1	定期試験・出席状況	91.7%	8.3%	100.0%	45.8%	29.2%	25.0%	0.0%
専門教育科目	栄養士の科学	講義	35	1	定期試験	68.6%	31.4%	85.7%	40.0%	17.1%	28.6%	14.3%
	長崎食育学	実習	42	1	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	38.1%	59.5%	2.4%	0.0%
	情報処理演習	演習	38	1	出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	84.2%	13.2%	2.6%	0.0%
	公衆衛生学	講義	42	1	定期試験	92.9%	7.1%	100.0%	42.9%	31.0%	26.2%	0.0%
	社会福祉概論	講義	42	1	定期試験・出席状況	95.2%	4.8%	100.0%	64.3%	23.8%	11.9%	0.0%
	健康管理概論	講義	39	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	解剖生理学	講義	42	1	定期試験	81.0%	19.0%	100.0%	31.0%	28.6%	40.5%	0.0%
	解剖生理学実習	実習	42	2	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	16.7%	4.8%	0.0%
	生化学Ⅰ	講義	42	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	31.0%	19.0%	0.0%
	生化学Ⅱ	講義	41	1	定期試験	97.6%	2.4%	97.6%	61.0%	29.3%	7.3%	2.4%
	生化学実験	実験	42	2	定期試験・レポート・出席	95.2%	4.8%	100.0%	42.9%	45.2%	11.9%	0.0%
	運動生理学	講義	41	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	41.5%	14.6%	43.9%	0.0%
	病理学	講義	42	1	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	73.8%	26.2%	0.0%	0.0%
	食品学Ⅰ	講義	42	1	定期試験	73.8%	26.2%	100.0%	11.9%	33.3%	54.8%	0.0%
	食品学基礎実験	実験	42	2	定期試験・レポート・出席	90.5%	9.5%	95.2%	16.7%	61.9%	16.7%	4.8%
	食品学Ⅱ	講義	42	1	定期試験	76.2%	23.8%	100.0%	16.7%	35.7%	47.6%	0.0%
	食品学実験	実験	42	2	定期試験・レポート・出席	88.1%	11.9%	95.2%	14.3%	42.9%	38.1%	4.8%
	食品加工学	講義	42	1	定期試験	64.3%	35.7%	100.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	食品加工実習	実習	41	2	レポート・出席	100.0%	0.0%	100.0%	39.0%	48.8%	12.2%	0.0%
	食品衛生学	講義	42	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	54.8%	28.6%	16.7%	0.0%
	食品衛生学実験	実験	42	2	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	54.8%	33.3%	11.9%	0.0%
	栄養学Ⅰ	講義	42	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	69.0%	26.2%	4.8%	0.0%
	栄養学Ⅱ	講義	42	1	定期試験	97.6%	2.4%	100.0%	40.5%	47.6%	11.9%	0.0%
	応用栄養学実習	実習	42	2	定期試験・レポート・出席状況	95.2%	4.8%	97.6%	23.8%	45.2%	28.6%	2.4%
	臨床栄養学Ⅰ	講義	42	1	定期試験	59.5%	40.5%	100.0%	21.4%	19.0%	59.5%	0.0%
	臨床栄養学Ⅱ	講義	41	1	定期試験	68.3%	31.7%	100.0%	17.1%	24.4%	58.5%	0.0%
	臨床栄養学実習	実習	41	2	定期試験・レポート	97.6%	2.4%	97.6%	85.4%	7.3%	4.9%	2.4%
	公衆栄養学	講義	42	1	定期試験	81.0%	19.0%	100.0%	54.8%	11.9%	33.3%	0.0%
	栄養教育指導論Ⅰ	講義	42	1	定期試験	81.0%	19.0%	100.0%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%
	栄養教育指導論実習Ⅰ	実習	42	2	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	71.4%	19.0%	9.5%	0.0%
	栄養教育指導論Ⅱ	講義	42	1	定期試験	95.2%	4.8%	100.0%	31.0%	40.5%	28.6%	0.0%
	栄養教育指導論実習	実習	41	2	定期試験・レポート	95.1%	4.9%	95.1%	36.6%	46.3%	12.2%	4.9%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	給食経営管理論	講義	42	1	定期試験	92.9%	7.1%	100.0%	54.8%	21.4%	23.8%	0.0%
	給食経営管理論実習	実習	42	2	定期試験・レポート・出席状況	97.6%	2.4%	100.0%	45.2%	47.6%	7.1%	0.0%
	給食経営管理論実習	実習	23	2	レポート・出席状況	65.2%	34.8%	100.0%	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%
	学外実習総合演習	演習	41	1	レポート・出席状況・提出物	100.0%	0.0%	97.6%	90.2%	7.3%	0.0%	2.4%
	学外実習Ⅰ	実習	41	—	実習ノート・実習先からの評価	100.0%	0.0%	100.0%	68.3%	22.0%	9.8%	0.0%
	学外実習Ⅱ	実習	40	—	実習ノート・実習先からの評価	100.0%	0.0%	100.0%	67.5%	27.5%	5.0%	0.0%
	調理学	講義	42	1	定期試験	78.6%	21.4%	100.0%	11.9%	26.2%	61.9%	0.0%
	調理学実習Ⅰ	実習	42	2	定期試験・レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	73.8%	23.8%	2.4%	0.0%
	調理学実習Ⅱ	実習	41	2	定期試験・レポート・出席状況	97.6%	2.4%	100.0%	70.7%	26.8%	2.4%	0.0%
	調理学実習Ⅲ	実習	41	2	定期試験・レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	29.3%	63.4%	7.3%	0.0%
	卒業研究	演習	42	5	提出物・出席・発表会	100.0%	0.0%	100.0%	90.5%	9.5%	0.0%	0.0%

〈生活科学科生活情報専攻の単位認定の状況表〉

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
基礎科目	現代社会と女性	講義	28	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	3.6%	17.9%	0.0%
	生涯学習論	講義	24	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	16.7%	8.3%	0.0%
	現代社会の心理学	講義	16	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	日本文化概論	講義	16	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	音楽概論	講義	22	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	68.2%	31.8%	0.0%	0.0%
	書道概論	講義	6	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	美術概論	講義	11	1	実技試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%
	ヒトと生物	講義	20	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	40.0%	35.0%	25.0%	0.0%
	経済学	講義	28	1	定期試験	96.4%	3.6%	100.0%	75.0%	17.9%	7.1%	0.0%
	日本国憲法	講義	0	1	定期試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
専門教育科目	生涯スポーツ	演習	27	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	63.0%	22.2%	14.8%	0.0%
	英語	演習	12	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	コンピュータ操作	演習	16	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	18.8%	6.3%	0.0%
	情報処理論	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%
	情報検索	講義	24	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	情報科学	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	35.7%	50.0%	14.3%	0.0%
	プログラミング	演習	22	1	学習状況・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	68.2%	22.7%	9.1%	0.0%
	データの科学	講義	28	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%
	データの科学演習	演習	2	1	定期試験	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	コンピュータネットワーク概論	講義	28	1	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	10.7%	10.7%	0.0%
	日本語表現	講義	28	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	57.1%	21.4%	21.4%	0.0%
	スピーチコミュニケーション	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	17.9%	64.3%	17.9%	0.0%
	オーラルイングリッシュ	演習	2	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ビジネスイングリッシュ	演習	4	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	米語LL演習 1	演習	9	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%
	米語LL演習 2	演習	8	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
	比較文化 1	演習	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	46.4%	42.9%	10.7%	0.0%
	比較文化 2	演習	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	異文化間コミュニケーション論	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%
	インターネット英語	講義	4	1	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	海外短期留学	実習	3	—	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ビジネス文書作成 1	演習	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	57.1%	25.0%	17.9%	0.0%
	ビジネス文書作成 2	演習	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	82.1%	10.7%	7.1%	0.0%
	ビジネスデータ活用 1	演習	28	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	60.7%	0.0%	39.3%	0.0%
	ビジネスデータ活用 2	演習	28	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	46.4%	3.6%	50.0%	0.0%
	時事研究	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	32.1%	53.6%	14.3%	0.0%
	社会心理学	講義	28	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	秘書概論	講義	28	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	67.9%	14.3%	17.9%	0.0%
	秘書実務 1	実習	28	2	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	10.7%	3.6%	0.0%
	秘書実務 2	実習	28	2	定期試験・出席状況	96.4%	3.6%	100.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%
	事務管理	講義	28	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	60.7%	21.4%	17.9%	0.0%
	会計学	講義	16	1	定期試験・出席状況	75.0%	25.0%	100.0%	37.5%	18.8%	43.8%	0.0%
	マナー学	演習	28	2	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	67.9%	32.1%	0.0%	0.0%
	キャリアアップセミナー1	演習	28	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	7.1%	7.1%	0.0%
	キャリアアップセミナー2	演習	28	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	7.1%	7.1%	0.0%
	卒業研究	演習	28	6	取組み姿勢・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	78.6%	17.9%	3.6%	0.0%
	単位互換	—	0	—	—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	ウェブデザイン	演習	16	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
	ウェブデザイン演習 1	演習	13	1	出席状況	92.3%	7.7%	100.0%	38.5%	46.2%	15.4%	0.0%
	ウェブデザイン演習 2	演習	12	1	出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	66.7%	25.0%	8.3%	0.0%
	ウェブプログラミング 1	演習	13	1	定期試験・出席状況	92.3%	7.7%	100.0%	38.5%	30.8%	30.8%	0.0%
	ウェブプログラミング 2	演習	12	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	41.7%	41.7%	16.7%	0.0%
	カラーコーディネーティング	講義	18	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	27.8%	22.2%	0.0%
	CG入門	講義	11	1	課題達成状況・小テスト	100.0%	0.0%	100.0%	63.6%	0.0%	36.4%	0.0%
	インテリアデザイン演習	演習	9	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	55.6%	11.1%	33.3%	0.0%
	マルチメディア演習	演習	28	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	21.4%	3.6%	0.0%
	データベース演習 1	演習	21	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%
	データベース演習 2	演習	3	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	システム管理論	講義	23	1	定期試験・出席状況	73.9%	26.1%	91.3%	34.8%	21.7%	34.8%	8.7%
	インターンシップ	実習	8	—	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	公衆衛生学	講義	24	1	定期試験	79.2%	20.8%	100.0%	37.5%	16.7%	45.8%	0.0%
	医学入門	講義	24	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	83.3%	12.5%	4.2%	0.0%
	薬学・衛生学	講義	24	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%
	医療管理学	講義	24	1	定期試験・出席状況	66.7%	33.3%	100.0%	37.5%	16.7%	45.8%	0.0%
	医療事務論	講義	24	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	医療事務実技	実習	24	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	95.8%	4.2%	0.0%	0.0%
	医療情報学	講義	24	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	45.8%	20.8%	33.3%	0.0%
	図書管理論	講義	24	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	41.7%	25.0%	33.3%	0.0%
	病院実習	実習	16	—	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	93.8%	0.0%	6.3%	0.0%

〈生活科学科生活福祉専攻の単位認定の状況表〉

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
基礎科目	人権と法	講義	32	1	定期試験・出席状況	59.4%	40.6%	100.0%	21.9%	9.4%	68.8%	0.0%
	日本語表現	講義	32	1	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	40.6%	31.3%	28.1%	0.0%
	女性学	講義	32	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	90.6%	6.3%	3.1%	0.0%
	生涯スポーツ	演習	32	1	出席状況・理解度	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	28.1%	3.1%	0.0%
	経済学	講義	1	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生活科学	講義	0	1	レポート	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	心理学	講義	16	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	ヒトと生物	講義	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	15.6%	43.8%	40.6%	0.0%
	情報処理演習	演習	32	1	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	時事研究	講義	16	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	31.3%	50.0%	18.8%	0.0%
	英語	演習	0	1	定期試験・小テスト	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
専門教育科目	社会福祉概論Ⅰ	講義	32	1	定期試験	96.9%	3.1%	100.0%	43.8%	37.5%	18.8%	0.0%
	社会福祉概論Ⅱ	講義	32	1	レポート・定期試験	93.8%	6.3%	100.0%	25.0%	53.1%	21.9%	0.0%
	老人福祉論Ⅰ	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	28.1%	40.6%	31.3%	0.0%
	老人福祉論Ⅱ	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	18.8%	53.1%	28.1%	0.0%
	障害者福祉論	講義	32	1	中間及び定期試験	93.8%	6.3%	100.0%	37.5%	34.4%	28.1%	0.0%
	リハビリテーション論	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	56.3%	25.0%	18.8%	0.0%
	社会福祉援助技術	講義	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	43.8%	28.1%	28.1%	0.0%
	社会福祉援助技術演習	演習	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	93.8%	0.0%	6.3%	0.0%
	レクリエーション活動援助法	演習	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	老人・障害者の心理Ⅰ	講義	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	3.1%	9.4%	0.0%
	老人・障害者の心理Ⅱ	講義	32	1	定期試験・出席状況	93.8%	6.3%	100.0%	71.9%	18.8%	9.4%	0.0%
	家政学概論Ⅰ	講義	32	1	定期試験・出席状況	84.4%	15.6%	100.0%	65.6%	15.6%	18.8%	0.0%
	家政学概論Ⅱ	講義	32	1	定期試験	93.8%	6.3%	100.0%	62.5%	31.3%	6.3%	0.0%
	家政学実習Ⅰ	実習	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	56.3%	34.4%	9.4%	0.0%
	家政学実習Ⅱ	実習	32	1	定期試験・出席状況	96.9%	3.1%	100.0%	25.0%	40.6%	34.4%	0.0%
	医学一般Ⅰ	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	6.3%	25.0%	0.0%
	医学一般Ⅱ	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	71.9%	0.0%	28.1%	0.0%
	医学一般Ⅲ	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	65.6%	9.4%	25.0%	0.0%
	精神保健	講義	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	84.4%	3.1%	12.5%	0.0%
	介護概論Ⅰ	講義	32	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	65.6%	6.3%	28.1%	0.0%
	介護概論Ⅱ	講義	32	1	定期試験・レポート	65.6%	34.4%	100.0%	28.1%	18.8%	53.1%	0.0%
	介護技術Ⅰ	演習	32	2	定期試験・レポート・実技	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	21.9%	9.4%	0.0%
	介護技術Ⅱ	演習	32	2	定期試験・レポート・実技	100.0%	0.0%	100.0%	90.6%	3.1%	6.3%	0.0%
	介護技術Ⅲ	演習	32	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	84.4%	15.6%	0.0%	0.0%
	形態別介護技術Ⅰ	演習	32	2	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	12.5%	18.8%	0.0%
	形態別介護技術Ⅱ	演習	32	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	65.6%	28.1%	6.3%	0.0%
	形態別介護技術Ⅲ	演習	32	1	定期試験	90.6%	9.4%	100.0%	46.9%	25.0%	28.1%	0.0%
	介護実習Ⅰ	実習	32	—	実習先からの評価など	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%
	介護実習Ⅱ	実習	32	—	実習先からの評価など	100.0%	0.0%	100.0%	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%
	介護実習Ⅲ	実習	32	—	実習先からの評価など	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%
	介護実習Ⅳ	実習	32	—	実習先からの評価など	100.0%	0.0%	100.0%	68.8%	18.8%	12.5%	0.0%
	介護実習Ⅴ	実習	32	—	実習先からの評価など	100.0%	0.0%	100.0%	59.4%	37.5%	3.1%	0.0%
	介護実習指導Ⅰ	演習	32	1	記録物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	介護実習指導Ⅱ	演習	32	1	記録物・出席・事例研究	100.0%	0.0%	100.0%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%
	レクリエーション理論	講義	32	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%
	レクリエーション現場実習	実習	32	—	実習状況	100.0%	0.0%	100.0%	21.9%	78.1%	0.0%	0.0%
	歌唱実技	演習	32	1	実技テスト	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	介護総合演習Ⅰ	演習	32	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	96.9%	3.1%	0.0%	0.0%
	介護総合演習Ⅱ	演習	32	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%

〈幼児教育学科幼児教育学科の単位認定の状況表〉

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
基礎科目	現代社会と女性	講義	99	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	89.9%	9.1%	1.0%	0.0%
	生涯学習論	講義	98	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	85.7%	4.1%	10.2%	0.0%
	現代社会の心理学	講義	2	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日本文化概論	講義	99	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	94.9%	3.0%	2.0%	0.0%
	音楽概論	講義	52	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%
	書道概論	講義	43	1	レポート	100.0%	0.0%	100.0%	81.4%	18.6%	0.0%	0.0%
	美術概論	講義	23	1	実技試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	87.0%	4.3%	8.7%	0.0%
	ヒトと生物	講義	3	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	経済学	講義	0	1	定期試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	日本国憲法	講義	98	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	63.3%	29.6%	7.1%	0.0%
	体育講義	講義	99	3	各章毎のテスト	100.0%	0.0%	100.0%	93.9%	5.1%	1.0%	0.0%
	体育実技	実習	99	3	毎時間の達成度チェック	100.0%	0.0%	100.0%	64.6%	34.3%	1.0%	0.0%
	英語	演習	99	3	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	54.5%	12.1%	0.0%
専門教育科目	情報科学	講義	99	3	提出物・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	54.5%	38.4%	7.1%	0.0%
	教育原理	講義	99	1	出席・レポート・定期試験	71.7%	28.3%	100.0%	20.2%	24.2%	55.6%	0.0%
	保育原理Ⅰ	講義	99	1	出席・レポート・定期試験	71.7%	28.3%	100.0%	12.1%	29.3%	58.6%	0.0%
	保育原理Ⅱ	講義	99	1	出席・レポート・定期試験	78.8%	21.2%	100.0%	22.2%	37.4%	40.4%	0.0%
	保育者論	講義	97	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	64.9%	33.0%	2.1%	0.0%
	教育史	講義	99	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	50.5%	33.3%	16.2%	0.0%
	社会福祉	講義	99	1	定期試験・レポート	79.8%	20.2%	100.0%	45.5%	20.2%	34.3%	0.0%
	社会福祉援助技術	演習	99	2	提出物・定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	83.8%	14.1%	2.0%	0.0%
	児童福祉	講義	99	1	レポート・定期試験	75.8%	24.2%	100.0%	29.3%	23.2%	47.5%	0.0%
	養護原理	講義	99	1	定期試験・レポート	74.7%	25.3%	100.0%	38.4%	28.3%	33.3%	0.0%
	発達心理学	講義	99	1	定期試験・レポート	75.8%	24.2%	100.0%	36.4%	20.2%	43.4%	0.0%
	教育心理学	講義	99	1	定期試験・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	81.8%	16.2%	2.0%	0.0%
	臨床心理学	講義	99	1	定期試験・出席状況	98.0%	2.0%	100.0%	67.7%	15.2%	17.2%	0.0%
	小児保健Ⅰ	講義	99	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	73.7%	23.2%	3.0%	0.0%
	小児保健Ⅱ	講義	98	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	75.5%	16.3%	8.2%	0.0%
	小児保健実習	実習	99	2	定期試験	100.0%	0.0%	99.0%	68.7%	21.2%	9.1%	1.0%
	小児栄養演習	演習	99	2	定期試験・提出物	94.9%	5.1%	100.0%	53.5%	30.3%	16.2%	0.0%
	精神保健	講義	99	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	58.6%	35.4%	6.1%	0.0%
	家族援助論	講義	98	1	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	45.9%	40.8%	13.3%	0.0%
	保育内容総論	演習	99	1	定期試験	82.8%	17.2%	100.0%	33.3%	32.3%	34.3%	0.0%
	保育内容（健康）	演習	99	2	小テスト・レポート・課題・出席	84.8%	15.2%	100.0%	44.4%	26.3%	29.3%	0.0%
	保育内容（人間関係）	演習	99	2	定期試験・作品提出	100.0%	0.0%	100.0%	94.9%	3.0%	2.0%	0.0%
	保育内容（環境）	演習	99	2	定期試験・提出・出席状況	97.0%	3.0%	100.0%	46.5%	48.5%	5.1%	0.0%
	保育内容（ことば）	演習	99	2	出席状況・レポート・試験	77.8%	22.2%	100.0%	16.2%	30.3%	53.5%	0.0%
	保育内容（表現）	演習	99	2	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	29.3%	55.6%	15.2%	0.0%
	乳児保育	演習	99	2	出席状況・課題・試験	100.0%	0.0%	100.0%	37.4%	58.6%	4.0%	0.0%
	障害児保育	演習	99	2	定期試験・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	73.7%	19.2%	7.1%	0.0%
	養護内容	演習	99	2	提出物・定期試験	94.9%	5.1%	100.0%	72.7%	20.2%	7.1%	0.0%
	保育方法論	講義	99	1	定期試験	76.8%	23.2%	100.0%	23.2%	30.3%	46.5%	0.0%
	指導法の研究	演習	99	2	レポート・出席状況	100.0%	0.0%	99.0%	16.2%	47.5%	35.4%	1.0%
	遊びの文化（指導法）	演習	99	2	レポート・作品提出	100.0%	0.0%	98.0%	46.5%	40.4%	11.1%	2.0%
	運動遊びの実践（指導法）	演習	66	2	レポート・受講態度・出席	100.0%	0.0%	97.0%	66.7%	25.8%	4.5%	3.0%
	動きのリズム（指導法）	演習	96	2	実技・レポート・出席	100.0%	0.0%	99.0%	28.1%	56.3%	14.6%	1.0%
	子どもの絵と製作（指導法）	演習	87	2	出席状況・受講態度	100.0%	0.0%	100.0%	94.3%	5.7%	0.0%	0.0%
	幼児音楽（指導法）	演習	99	2	定期試験・提出物	100.0%	0.0%	100.0%	45.5%	40.4%	14.1%	0.0%
	国語表現法	講義	99	1	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	50.5%	37.4%	12.1%	0.0%
	図画工作	演習	99	2	出席状況・受講態度	100.0%	0.0%	100.0%	51.5%	39.4%	9.1%	0.0%
	幼児体育	演習	99	2	出席状況・レポート	100.0%	0.0%	100.0%	60.6%	31.3%	8.1%	0.0%
	ヴォイストレーニングⅠ	演習	54	2	実技試験・受講意欲	100.0%	0.0%	100.0%	61.1%	38.9%	0.0%	0.0%
	ヴォイストレーニングⅡ	演習	28	2	実技試験・受講意欲	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	クラス数	主な単位認定の方法	単位の取得状況			最終の評価			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	音楽Ⅰ	演習	99	3	到達度・練習量	100.0%	0.0%	100.0%	8.1%	71.7%	20.2%	0.0%
	音楽Ⅱ	演習	98	3	到達度・練習量	100.0%	0.0%	100.0%	31.6%	60.2%	8.2%	0.0%
	教育実習	実習	97	—	—	100.0%	0.0%	99.0%	55.7%	36.1%	7.2%	1.0%
	保育実習Ⅰ	実習	96	—	—	100.0%	0.0%	99.0%	58.3%	33.3%	7.3%	1.0%
	保育実習Ⅱ	実習	96	—	—	100.0%	0.0%	100.0%	62.5%	32.3%	5.2%	0.0%
	保育実習Ⅲ	実習	4	—	—	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	総合演習	演習	99	2	定期試験・レポート・出席状況	100.0%	0.0%	100.0%	33.3%	35.4%	31.3%	0.0%
	卒業研究	演習	99	10	出席状況・活動内容・発表会	100.0%	0.0%	100.0%	93.9%	6.1%	0.0%	0.0%
	レクリエーション理論	講義	44	1	定期試験	100.0%	0.0%	100.0%	65.9%	34.1%	0.0%	0.0%
	レクリエーション実技	実習	43	1	作品提出・出席状況	100.0%	0.0%	97.7%	67.4%	25.6%	4.7%	2.3%
	レクリエーション学外実習	実習	43	—	出席状況	100.0%	0.0%	97.7%	27.9%	69.8%	0.0%	2.3%

48

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

教員により、試験問題の難易度、授業レベルなどに若干ばらつきがみられる状態であるが、教員任せの単位認定方法は改善を重ね、共通理解ができてきた。学期ごとに成績評価について具体的なデータを報告することにしており、全員が評価方法を共有し、評価に関する方針が定まってきたと考えている。このような評価方法の公開は今後も進めていきたい。

〈生活科学科生活情報専攻〉

単位認定、評価の方法は担当教員の裁量に任されている。評価結果が単位認定得点に不足した者については、再試験制度により認定されるケースや、最終授業から成績報告までの期間があることから、補講や課題、レポート、再々試験などで単位認定可能な段階まで学習支援をしている。学生の基礎学力の格差は広がっており、個別指導を行いながら、学力が一定水準に達した学生に適正に単位認定・評価が行われていると受け止めている。平成22年度はGPA制度の導入についての検討を開始した。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

単位認定と評価は、基本的に各担当教員の判断に任されている。しかし、実習のように複数の教員が学生を分けて受け持つ場合、担当する教員により評価が大きく異なることがないよう教員間で共通の認識を持って評価するようにしている。また、定期試験の他、多くの場合レポート、小テストなどが適宜実施されており、出席回数も考慮しながら総合的な認定・評価に努めており、適切な単位認定・評価が行われていると考えている。

〈幼児教育学科〉

単位認定、評価の方法は担当教員の裁量に任されており、必要に応じて、再試、補講等実施して対応するなど、学習支援の充実を図っている。教育実習・保育実習については、実習園の実習評価・事前事後指導等資料を学科会議で協議し、適正な認定評価ができるよう努めている。また、実習中問題が生じた学生に対する実習評価について

ては、学科会議にて十分検討したうえで評価を行っている。

授業や実習の単位が不成立となった学生に対しては、本人・保護者・チューター・主任の四者面談を実施し、現状確認とこれからの学習への取り組み、就職等について話し合う機会を設けており、認定評価だけでなく学生支援も含めて指導を行っている。今後もこうした支援がさらに必要になると思われるため、「学外実習の制限」について従来のものを検討して、実情にあった内容にすることを考えている。

49

(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

各学科・専攻共に、おおむね適切な評価に基づき、単位が認定されている。「教育の質の保証」との絡みがある中で、一概にはいえないところもあるが、稀に、選択科目において単位未修得者が散見されるのは残念である。ただし、このような学生に対しては、将来を案じ、個別指導、補習、レポート、再テスト等も実施されており、学生一人ひとりを大切にした教育が施されていると考えている。

【授業に対する学生の満足度について】

50

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

学期ごとに授業の満足度調査を行っている。その結果、無記名のアンケート調査であるが、学科・専攻により「やや不満」「不満」の回答が0～14%程度存在している。入学してくる学生の学力などの差が大きいこともあると思うが、担当する授業に対する工夫も必要であるとする。今後は、授業アンケートの結果を教員全員で共有し、改善に繋げていきたい。

51

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

学生の授業に対する満足度への配慮は十分行っており、きめ細かい教育支援がなされていると考えている。また、学期終了後には、教員が必ず授業の総括を主任まで提出し専攻会議で次への取り組みの資料として話し合いを行っている。授業計画はそれを基に立てられているので、配慮がなされた授業の実施を各教員とも努力している。

〈生活科学科生活情報専攻〉

卒業時アンケートによれば、カリキュラムに対する満足度が高いとは言えない。また、回答者数が少ないものの授業内容についても不満の意見が見られる。他の学科専

攻と異なり、目標とする就職先や資格の幅が広く、明確な目的意識を持たない学生が多いことも影響していると思われ、キャリアアップセミナーなど、職業意識を高めるカリキュラムの充実が必要であると考え、カリキュラムの改定作業に入ったところである。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

授業について、学生の半数以上は「満足・ほぼ満足」であるが、「どちらともいえない」という答えも多い。各教員はそれぞれ授業内容等研究しながら実施するとともに、常に授業計画を見直ししながら、わかりやすい授業・学習意欲を高める授業の実施に努めたい。

〈幼児教育学科〉

授業に対する学生の満足度については、学科会議で必要に応じて取り上げ協議している。また、各教員が授業の振り返りや学生の理解等の状況把握をし、学生の満足度と授業目標の達成に繋いでいくことを目指している。その結果、卒業時アンケートにおいて学生の授業に対する満足度の高さを維持することにつながっていると考えている。

52

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

短期大学全入という現況下において、各学科・専攻教員は補習授業や個別指導、オリエンテーションなどを実施し、学生の理解度を高める努力している。その結果、卒業時アンケートでの学生満足度もおおむね良好であるといえる。今後は、入学者全員が卒業できるように、今以上に愛情と情熱を傾注すると同時に、教員の指導力向上のための研修を多く取り入れ、授業におけるP・D・C・Aサイクルを考えるなど、教育の質の向上に努めたい。

【退学、休学、留年等の状況について】

53

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

生活科学科食物栄養専攻

	19年度入学	20年度入学	21年度入学
入学者数	77	47	39
うち退学者数	12	3	2
うち休学者数	0	1	3
休学者のうち復学者数	0	0	0
他専攻へ転入	0	1	0
留年者数	0	0	0
卒業生数	65	43	

生活科学科生活情報専攻

	19年度入学	20年度入学	21年度入学
入学者数	38	31	36
うち退学者数	1	1	2
うち休学者数	0	2	0
休学者のうち復学者数	0	0	0
他専攻へ転入	0	0	0
留年者数	0	0	0
卒業生数	37	28	

生活科学科生活福祉専攻

	19年度入学	20年度入学	21年度入学
入学者数	30	32	28
うち退学者数	3	0	0
うち休学者数	0	0	1
休学者のうち復学者数	0	0	0
他専攻へ転入	0	0	0
留年者数	1	0	0
卒業生数	26	32	

幼児教育学科

	19年度入学	20年度入学	21年度入学
入学者数	113	102	98
うち退学者数	8	2	2
うち休学者数	0	1	5
休学者のうち復学者数	0	0	0
他専攻へ転入	0	0	0
留年者数	1	0	0
卒業生数	104	99	

54

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

年度ごとに休・退学者の動向は異なるが、最近の休・退学の理由として勉学意欲の喪失、人間関係構築の失敗、精神的疾患、経済面などが挙げられる。こうした理由を抱える学生に対し、チューターはよく面倒をみていると感じている。しかし近年、何の兆候もなく、チューターに申し出たときには退学の意思を固めており、手立てがないという状況になるケースが多く見られるようになった。それをできるだけ少なくするため、授業でも普段の学生生活でも全員が気を配ることにしている。特に問題になりそうな学生には、チューター面談はもちろん、学期ごとに教育懇談会を開催し、保護者を交えた3者面談を実施している。今後も、チューターだけでなく必要に応じて主任や関係科目の教員も支援する体制を継続していくつもりである。

〈生活科学科生活情報専攻〉

平成20年度入学生2名、平成21年度入学生2名（うち1名は食物栄養専攻からの転専

攻)の退学者があった。不本意入学、家庭環境の変化、健康上の問題であった。

定期的なチューターとの面談の他、欠席が続くなど、休学・退学につながるような兆候は、専攻会議等で早めに情報交換し、チューターが対応するようにしている。また、復学の道を残しておくため、退学の意志があっても、休学して進路を考えるよう指導しているが、本専攻の場合、復学するケースは非常に少ない。また、アンケートによれば、不安や悩みについて相談する相手は友人であり、学生相談室や専攻の教員に相談する者はほとんど見られない。気軽に相談できる環境作りを醸成するとともに、学生支援力の向上に努めたい。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

平成19年度入学生の退学率は10%と高率であったが、平成20年度・21年度入学生は休・退学がなく全員進級した。さらに、平成20年度入学生は、入学生全員が同時に卒業できた。これは、退学を考えている学生は欠席が目立つようになるため、その段階で専攻会議に諮り、チューターを中心に本人及び保護者との面談等を繰り返し行い、学生への個別支援をきめ細かく行った結果であると考ええる。今後も休・退学者を出さないように努めたい。

〈幼児教育学科〉

休・退学の理由として勉学意欲の喪失、体調不良、経済的理由等が挙げられる。欠席が続くなどの兆候には、学科会議等で情報交換をし、チューター面談をするなど、早急に対応している。また、必要に応じて、保護者も交えた対応も行っている。復学した学生に対しても、チューターを中心に学科の教員が支援を行っており、平成21年度は、2年間の休学後、復学した学生が資格を取得し目標を達成して卒業した。今後もチューターを軸に教員間の情報交換を密にして学生と関わっていききたい。

55

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

全入の時代を迎え、経済的な問題や精神的に悩みを持った学生、人間関係が結べないなど学生の問題も多様化しており、教員の努力だけでは対処が困難なことも多くなっている。しかし、専門への興味を失って休・退学する学生が出ないよう、専攻をあげて支援する努力を行っている。今後も支援を継続していきたい。

〈生活科学科生活情報専攻〉

本専攻の3年間の休・退学者6名のうち5名が系列の高校出身である。休・退学の理由としては、「勉学意欲喪失」および「進路での悩み」が多い傾向が見られた。高校における指導によって本学への入学者が増えた一方、不本意で入学したケースがあると考えられる。本専攻としても高校への出前授業の実施などにより、相互に理解を深める必要があると受け止めている。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

精神的な問題、家庭的な問題、学習能力など、難しい課題を複合的に抱えた学生が休・退学に至ることが多く、日頃から、信頼関係に基づくサポートをしていく必要が

ある。今後は、チューターによる日頃からの個別支援を充実させていきたい。

〈幼児教育学科〉

休・退学の理由として経済的理由、学業不振による勉学意欲の喪失などが挙げられる。日頃から授業中の様子やチューターからの情報を学科教員全員で共有し、気になる学生については必要に応じて面談を実施したり、家庭と連絡を取るなどの対応をしている。しかし、最近は医療専門家によるケアを要する学生も出てきており、教員の指導には限界があることも感じている。今後も、チューターを軸に教員間の情報交換を密にして学生と関わっていくつもりである。

56

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

休・退学者が多いとの認識である。入学者の大半が推薦入試での入学であり、系列高校からの入学者も多数在籍すると同時に、四大新卒、社会人と多様である。このため、学力、学習意欲、親の経済力の格差が顕著になっている。学生生活が光り輝き、実りあるものとなるように、入学前の導入教育、入学後の初年次教育、授業の実施方法等、FD、SD研修の中で深めているところである。教職員一体となり、危機意識を共有しているので、今後は進路変更を余儀なくされる学生の減少を期待したい。また、学生相談室の充実にも努めていきたい。

【資格取得の取組みについて】

57

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(8ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

生活科学科食物栄養専攻

免許・資格	平成21年度			
	在籍者数 (2年生)	取得を目指 した学生数 ①	取得数 ②	取得割合 ②／①
栄養士	43	43	38	88.4%

生活科学科生活情報専攻

免許・資格	平成21年度			
	在籍者数 (2年生)	取得を目指 した学生数 ①	取得数 ②	取得割合 ②／①
秘書士	30	26	26	100.0%
情報処理士		19	19	100.0%
ウェブデザイン実務士		10	10	100.0%
医療管理秘書士		24	23	95.8%
医事管理士		16	16	100.0%
日商P C 検定（文書作成） 3 級		22	12	54.5%
秘書検定 3 級		—	—	
秘書検定 2 級		26	7	26.9%
秘書検定準 1 級		2	0	0.0%

生活科学科生活福祉専攻

免許・資格	平成21年度			
	在籍者数 (2年生)	取得を目指 した学生数 ①	取得数 ②	取得割合 ②／①
介護福祉士	33	33	33	100.0%
福祉住環境コーディネーター 2級		2	0	0.0%
福祉住環境コーディネーター 3級		8	5	62.5%
レクリエーション・インストラクター		33	31	93.9%
日本赤十字社救急法・救急員認定証		28	28	100.0%

幼児教育学科

免許・資格	平成21年度			
	在籍者数 (2年生)	取得を目指 した学生数 ①	取得数 ②	取得割合 ②／①
幼稚園教諭二種免許	101	99	94	94.9%
保育士		98	95	96.9%
レクリエーション・インストラクター		41	38	92.7%

※各数字は、年度毎の卒業判定資料の数字

58

（２）今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

〈生活科学科生活情報専攻〉

新規にTOEICを、システムアドミニストレーター初級に代わってITパスポート試験に対応した授業を平成21年度より導入した。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

平成22年度入学生から「手話講座」を開設し、卒業時まで手話検定2～3級の取得を目指すことにした。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

59

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

現在、卒業生に対する就職先からの体系的な調査は実施していないが、本学が加盟する短期大学コンソーシアム九州の取り組みとして、平成22年度に短期大学卒業生に対する就職先からの評価を体系的に調査する予定である。

平成20年度から21年度の学科・専攻ごとの専門就職の状況については次表のとおりである。

学科・専攻	職 種	20年度 (人・割合)	21年度 (人・割合)
生活科学科食物栄養専攻	栄養士・調理	52(86.7%)	31(96.9%)
生活科学科生活情報専攻	事務職・サービス業	19(73.1%)	19(82.6%)
生活科学科生活福祉専攻	介護福祉士	24(100%)	33(100%)
幼児教育学科	保育士・幼稚園教諭	93(93.0%)	92(98.9%)

60

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

本学は「就職の長崎女子短期大学」といわれており、地域社会から高い評価を得ていると認識している。特に、就業した際に基盤となる挨拶やマナー教育の充実を図っており、就職先にも評価されている。専門職としての就職率が高率であるため、四年制大学や専門学校への編入者は僅少である。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

本専攻の専門就職率は非常に高く、90%近い学生が栄養士関係の職場に正社員として就職している。就職先は委託給食関係が多く、次いで施設、保育園と続いている。また、一部委託給食会社では、例年本専攻から10名近く採用されており、卒業生の努力が評価に繋がっていると考えている。今後は、現場で愛される栄養士として送り出すために、技術や知識はもとより、忍耐力があり地道な仕事ができる明るい性格の人材を養成するよう努めたい。

〈生活科学科生活情報専攻〉

卒業生に対して定期的な調査は実施していないので、客観的な評価はできない。医療事務職の場合、専門学校出身者と比較して挨拶やマナーなどの点で本学卒業生が評価されている。今後は定期的に調査アンケートを実施したい。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

就職先等からの評価について、調査用紙等による計画的調査は実施していないが、

各教員による求職訪問や実習指導訪問の際に受ける評価はおおむね良好である。中には、本学学生を優先的に採用したいという職場もあるが、学生数を越える求人に対し、応えることができない状況も生じている。今後とも、社会の評価に応えられるような人材を育成し、100%の就職率達成が継続できるよう努めたい。

〈幼児教育学科〉

例年、5～6月に本学科教員が新卒者の就職先を訪問し、卒業生の様子をうかがうとともに、既卒者の勤務状況を把握するよう努力している。それによると、本学科卒業生は素直さと勤勉さという面で特に高い評価を得ているようである。また、主任になって活躍している卒業生もあり、頼もしさを感じている。今後も、就職先の評価にしっかりと応じられるよう、学生一人ひとりを育成し高い就職率を維持するよう努めたい。

61

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取り組みの概要と結果について記述して下さい。

本学を含め9つの短大が加盟する「短期大学コンソーシアム九州」の取り組みとして、平成21年度から学生による短大評価を、短大1年次、2年次、卒業後の3つの時期に縦断的に調査することにした。今年度は1年次の調査を実施し、現在分析中である。今後は、2年次と卒業後の縦断的調査を実施する予定である。

卒業生との接触の場としては、各学科専攻で独自の「卒業生の集い」の場を設定し、定期的に卒後教育（資格・検定対策講座、教材研究、カウンセリング、情報交換）や懇親会を実施している。具体的には卒業生の職業生活を支援するために、各専門分野で資格取得対策講座を開設している。食物栄養専攻では「管理栄養士国家試験対策講座」を毎月1回の割合で土曜日に実施し、生活情報専攻では「日商PC検定試験（文書作成）」を2ヶ月に1回の割合で実施している。また、勉強会として、生活福祉専攻では「教材研究講座」と「懇親会」を7月の土曜日に開催し、幼児教育学科では卒業生に対して「教材研究講座」を6月と8月に開催するなどして、近況報告や職務上の相談を実施している。

62

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

〈学長〉

本学では、品格の教育、マナー教育に重きを置いている。就職先からは、挨拶、マナーが良い、勤勉、素直という評価がある。専門就職をする場合、就職先の期待を裏切らないように即戦力の養成に努力しており、今後も本学教育の質の向上に邁進したい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

卒業生の社会的評価については、現場の栄養士として長年勤務している様子からそれなりに評価されていると思われる。しかし、卒業時には管理栄養士を3年後に取得したいといいつつも、それができないまま現状に甘んじているようである。その証として例年60から80名の管理栄養士国家試験の受験者がいるにもかかわらず2から4名程度しか合格していない。栄養士の現場を仕切れる人材として育つことを目標に、在学生の教育支援に取り組んでいるところである。

〈生活科学科生活情報専攻〉

卒業生に対して定期的な調査は実施していないので、客観的な評価はできないが、医療事務職の場合、専門学校出身者と比較して挨拶・マナーの点で評価を得ている。今後は、短大コンソーシアム九州の活動と連携し、調査等の実施を検討している。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

卒業生に対して計画的な調査は実施していないが、教員が求職・実習指導訪問の際受ける評価はおおむね良好である。本学学生を優先的に採用したいという職場もあり、学生数を超える求人数に対して応えられない状況も生じている。

〈幼児教育学科〉

毎年、高率の就職率を維持できているのは、これまでの卒業生が、県内の幼稚園や保育園で主任として活躍していたり、就職先からも本学の卒業生は素直で勤勉に頑張っていると評価されているからだと考えている。

【特記事項について】

63

(1) この《Ⅳ教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

64

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

Ⅱ-5 学生授業評価アンケート票及び結果

Ⅱ-6 卒業生意識調査票及び結果

Ⅳ-1 地域・企業との共同による人材育成プログラムの開発に向けた短期大学における役割・機能に関する調査結果

《Ⅴ 学生支援》の記述及び資料等について

【入学に関する支援について】

65

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

毎年作成する入学案内や募集要項に記載し、進学説明会、オープンキャンパス、出前講座あるいは高校生の短大訪問時等あらゆる機会を通じて、直接入学志願者へ説明をしている。また、「関係高校との教育懇談会」では進路指導に携わる先生方に説明している。日常的には本学のホームページに掲載している。

66

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

毎年作成する募集要項に記載し、進学説明会、オープンキャンパス、出前講座、あるいは高校生の短大訪問時等あらゆる機会を通じて、直接高校生へ説明をしている。また、担当教員の高校訪問時や「関係高校との教育懇談会」の機会を利用して進路指導に携わる先生方に説明している。日常的には本学のホームページに掲載している。

67

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

〈広報及び入試事務の体制について〉

本学は小規模の短大で、最小限のスタッフで日々の業務に携わっていることから、専任の入試担当事務職員を配してはおらず、原則的に全員体制でこれに当たっている。入学試験やオープンキャンパス等の入試行事には、全教職員が携わっている。広報については、「入学案内」の制作や、オープンキャンパスの企画など、各学科の教員から構成された企画広報委員会が当たっている。

〈入学志願者の問い合わせに対する体制について〉

入学志願者や受験生等からの問い合わせに対しては、次の手段で事務職員が対応している。

- ◎ 電話（フリーダイヤル）
- ◎ FAX
- ◎ Eメール

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1. 指定校推薦入試

- ① 入試委員会で、年度始めにそれまでの受験実績から対象高等学校とその推薦枠を決定する。
- ② 当該高校長宛に指定校推薦枠の案内を行い推薦の依頼をする。
- ③ 志願者本人からの出願書類で指定校推薦での受験であることを確認する。
- ④ 書類審査（推薦書、調査書）・面接試験の総合評価にて判定する。
面接は、当該学科・専攻の教員2人が4項目を5段階で評価することを原則とする。（以下の選抜においても同様に面接試験を実施している）

2. 一般推薦入試

- ① 志願者本人からの出願書類で公募推薦での受験であることを確認する。
- ② 書類審査（推薦書、調査書）・面接試験の総合評価にて判定する。

3. 自己推薦入試（1期・2期に分けて実施）

- ① 高校、もしくは本人より事前の相談を受ける。
- ② 志願者本人からの出願書類で自己推薦での受験であることを確認する。
- ③ 小論文・書類審査（自己推薦書、調査書）・面接試験の総合評価にて判定する。
面接は当該学科・専攻教員の面接に加えて、学長による面接も行う。

4. 一般入試（前期・後期の2回実施）

- ① 志願者本人からの出願書類で一般入試での受験であることを確認する。
- ② 学科試験（国語）・書類審査（調査書）・面接試験の総合評価にて判定する。

5. 社会人入試

- ① 志願者本人からの出願書類で社会人入試での受験であることを確認する。
- ② 書類審査（出願理由書・最終学校の調査書）・面接試験の総合評価にて判定する。

入試終了後、受験生のデータと試験結果の得点（偏差値）を一覧表に作成し入試判定資料とする。合否は、この判定資料を基に入試委員会においてその原案が策定され、教授会において審議・承認される。

入試委員会は学長直属の委員会で運営委員会が兼任する。構成員は、学長、各学科専攻主任、学生部長、図書館長、改革評価委員長、生涯学習推進委員長、事務長、学務課長、副理事長、法人本部長である。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

- ①合格発表時の連絡文書として、合格通知書、誓約書、入学金・入寮費振込み用紙とその説明書、及び領収書添付用紙、入学金・授業料などを振込む際の注意説明書を一括して送付する。
- ②合格者で手続きが終了した入学予定者に対し、手続き終了の文書を送付する。
- ③2月中旬～3月初旬に、入学予定者へ入学式案内、学費関係、学生住所届用紙、学生累加記録カード、学生総合保険関係、学生生活のしおり（前年度分）、寮関係案内を送付する。
- ④現在、一部専攻で入学前に事前教育を実施しているが、短大での学習に円滑に溶け込めるように、少なくとも何らかの専門的課題を提供することを、全学で取り組む必要性を感じていた。そこで、平成22年度推薦入学者には「共通課題」を課し、郵送にて提出させた。さらに、学科専攻別に「専門課題」を課し、入学後提出とした。提出された課題は、今後の指導に生かしていくこととした。

70

（6）入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

入学者に対する学業や学生生活についてのガイダンスを、入学式直後及び翌日にわたる新入生オリエンテーションとして実施している。全学生を対象にした全体会とそれぞれの学科・専攻別の分科会を行っている。特に分科会では、専門性の理解が深まるよう努めている。さらに最初の授業ではシラバスを用いた授業の説明や、チューターミーティングも実施している。

食物栄養専攻では、入学前に任意参加の事前教育（プレリミナリスクーリング）を本学で実施しており、平成21年度は受講率58%という実績を残している。入学当初の不安、戸惑いから休みが多くなる学生がみられるため、今後は、教職員からの情報提供だけでなく、学科、専攻ごとに2年生との交流会等実施について検討していきたい。

【学習支援について】

71

（1）入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学時の新入生オリエンテーションでは、カレッジライフや時間割表さらに学年暦を用い、年間行事の確認や学外実習の実施時期などのガイダンスを行っている。さらに、それぞれの学科・専攻では、免許・資格取得に必要な科目の履修についても細かく指導している。また、入学時のみならず学期ごとの始業ガイダンスでも必要な科目履修について指導を行い、卒業単位や免許取得に必要な単位不足がないよう繰り返し指導している。

今後、2年生がアドバイスする機会を設けるなど、入学当初の不安を少なくできるような支援対策を検討していきたい。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

添付資料：シラバス・学科専攻別配布資料

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

基礎学力不足の学生に対する特別な教育支援は実施していないが、栄養士に必要な基礎科学に関しては、選択科目として1年生前期に「栄養士の科学」を開講している。科学が苦手な学生ほど選択しない傾向があったが、近年は90%近い受講率を示し、履修指導の成果だと感じている。

〈生活科学科生活情報専攻〉

基礎学力不足や検定の対策などの補習授業は、過去には実施していたが、卒業単位に含まれない科目では受講者がいない状況である。基礎学力不足は、今や一部の学生に止まらない。キャリアアップセミナーにおいて言語分野、理数分野の就職試験対策を兼ねて復習の授業を行っているが、時間数も足りず、実施方法等については更に検討が必要である。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

対象者を限定した取組みは行っていない。

卒業時共通試験対策セミナーにおいて、学内模擬試験実施ごとに個別表を作成し、そのデータを基に面接指導を行った。また、住環境コーディネーター受験者には、受験対策指導を行った。

〈幼児教育学科〉

音楽の基礎知識・能力が不足している学生を対象に、「音楽基礎ゼミナール」を1年次前期に6回（各90分）実施している。また、授業担当者がそれぞれの授業での学生の基礎学力不足をカバーするため、適時補習を実施したり、個別課題を与えるなどの工夫を行っている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制として学生相談室」を開設している。支援にあたっては、学内外の関係機関と連携を図りながら実施している。また、学生相談室は、チューターなどの「教育者の相談」に応ずるという位置付けをも有する。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

進度の早い学生や優秀な学生への学習支援は行っていない。しかし、これらの学生には、卒業生を対象とした管理栄養士国家試験対策講座への出席を促しており、毎年10名程度が受講している。この取り組みも、学生の将来を見据えた学習支援となっている。

〈生活科学科生活情報専攻〉

上級資格の取得を勧めるなどの指導を行っている。

秘書検定2級、準1級などの上級資格の取得対策を取り入れ、秘書技能検定2級合格者が前年度の8名から17名に、3級合格者が5名から22名と増加した。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

福祉住環境コーディネーター検定については、学年に関係なく3級、2級の合格を目指し、受験セミナーを開催しており、3級に合格した学生へは2級合格に向けた支援を行っている。

〈幼児教育学科〉

ピアノの技術については、これまでの経験の度合いによって進度にかなりの差がみられるため、学生の学習意欲を継続させながら取り組むことができるよう、それぞれの学生のレベルに沿った課題を出し能力の向上に努めている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

組織としては学生部長の下に学生委員会と教務委員会がある。学生委員会・教務委員会ともに教員4～5名(各学科専攻選出委員)と事務局員1名にて構成され、定例的に月に一度以上の頻度で委員会を開催している。事務組織としては事務長の下に学務課長および学生課と教務課事務職員がいる。

学生委員会は学生生活や、学友自治会活動を支援している。特に学友自治会活動を通して学生と教員の交流や助言の場を提供している。

教務委員会は、カリキュラム編成をはじめとする学生の履修指導や学習指導の企画・立案を行っている。

また、こころと体の相談に応じる「学生相談室」を設け、心理学専門教員2名と事務局員1名の相談体制をとっている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

体育系クラブにはバスケットボール部、バレーボール部、ソフトテニス部、バドミントン部および剣道部がある。文化系クラブにはガーデニング部、手話部、音楽ボランティア部、軽音楽部、茶道部およびアンサンブル部がある。いずれも放課後や夏期休暇中などを利用した活動を行っている。

学友自治会は、「尽心・創造・実践」の学訓、ならびに学生自治の精神に基づき、学生生活全般の発展向上と、会員相互の親睦を図るとともに、社会文化の交流に寄与することを目的に組織されている。学友自治会会長はじめ12名の役員は自薦他薦による立候補にて選出され、2年生が中心となって年間行事の企画・運営にあたっている。学生委員会は学友自治会役員が決定した後、それぞれ行事担当を決める時から関り、その企画内容についてできるだけ学生の要望を取り入れながら各行事を成功に導くべく助言・指導をしている。

主たる年間行事には入学記念パーティ、スポーツフェスタ、学友自治会定期総会、弥生祭(短大祭)、学友自治会役員選挙、卒業記念パーティなどがある。このうち最大規模の行事が弥生祭である。例年11月に実施され、短大創立以来続いている。その内容は、地域社会への学内開放と学生達の日ごろの活動・研究成果を発表する場となり、相互親睦と人間形成に役立っている。準備は5月末の学友自治会定期総会に始まり、研修会や企画会議を経て実施されている。また、弥生祭は地域や一般の人たちとの交流の場でもあり、本学の存在や役割を再認識してもらうきっかけともなっている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

〈休息のための施設〉

学生が寛げる場として本館に学生ロビー、2号館にエントランスホールがあり、テーブル、椅子、ソファのほか飲料水の自動販売機を備えている。また、エントランスホールには十八銀行ATMコーナーも設けている。また、壁面やコーナーを利用して、絵画や水槽を飾り、やわらかい雰囲気が醸し出されるように留意している。

〈保健室〉

保健室は1号館2階に位置しており、隣室が学生相談室、吹き抜けの空間で比較的静けさが保てるようになっている。室内には、ベッドが2台パーテーションで仕切り配置されている。体調不良の学生には学生課員が対応し、全教職員、チューターとの連携の中で適切な対処ができるようにしているが、保健室常駐職員がいらないため、学生には利用しづらい面もあるのではないかと感じている。現在、看護師資格を持つ教員がいるので相談に乗ってもらいながら、状況に応じて校医または近隣の病院で受診させることもある。

〈学生食堂〉

学生食堂は、朝夕は寮生の専用食堂となるが、昼間は学生、教職員にも利用可能

となり販わっている。平成21年度卒業生アンケートでは、全体的には57%が満足かほぼ満足、18.5%がやや不満足か不満足という結果で、不満足が前年度より1ポイント増加している。結果は業者に伝え、メニューや付帯サービスの向上に結び付くように努めている。

〈売店〉

食堂の隅に売店があり、運営は共に外部業者に委託している。売店の学用品・日用品の取扱い品目数が少ないという学生の声があり、委託業者に検討をお願いしている。一方で、学生自身が安価専門店等で購入するため売り上げが少ないという問題もあり採算面の問題をクリアできていない。問題解決のために、細かい項目によるアンケートの実施を業者と検討したい。

79

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

〈学生寮〉

本学には、遠隔地から入学する学生のために、200名収容可能な学生寮「若竹寮」をキャンパス内に設けている。最近は県外からの入学者が減少していることもあって入寮者は年々減少しているため、入寮希望者は全員受け入れ可能である。

学生は寮監（1名）、寮職員（2名）のもとで規則正しい生活を送っている。また、短大の組織として寮務委員会が設けられており、寮運営の支援体制にも十分配慮している。

4人部屋25室と2人部屋50室で、歓迎パーティ、誕生会、送別会などの行事も寮生主体で行なわれている。

平成21年度は短大生69名、系列高校生徒が運動部生を中心に29名在寮していた。学生の部屋割りについて、個室の希望があったため、2年生を前後期で半数ずつ個室（2人部屋を充当）とした。

下宿、アパート等を希望する学生には、学生課において本学近辺の管理体制の整ったアパート、マンション、下宿等を紹介している。

通学バスは公共交通機関のバス停が本学キャンパス入り口であることから、専用の通学バスは運行していない。原付バイクでの通学は一定の条件のもとで許可している。自家用車での通学は原則として認めていないが社会人学生で特別の理由があるものに限り認めている。

80

(5) 平成21・22年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

〈一般の奨学金制度〉

学生生活を円滑に営むためには各種奨学金は欠かすことの出来ない制度であり、本学においては、事務局の学生課が窓口となって希望学生に対応している。

また、介護福祉士養成施設向けに設けられていた「長崎県介護福祉士奨学金制度」が平成21年度より復活することは介護福祉士を目指す学生にとっては朗報である。（廃止前の利用率は学生の10％に達していた。）

平成21・22年度一般奨学金の受給状況

一般奨学金	20年度		21年度			
	奨学生数	貸与月額(千円)	奨学生数	貸与月額(千円)	奨学生数	貸与月額(千円)
日本学生支援機構(第一種)	49	2,716	46	2,534	37	1,969
日本学生支援機構(第二種)	149	10,100	166	11,220	154	10,410
長崎県育英会	0	0	0	0	4	188
長崎県介護福祉士奨学金※	0	0	9	450	10	500
野母崎町奨学金	0	0	0	0		
宮崎県育英資金	0	0	0	0		
(財)松藤奨学育成基金	5	171	3	122		
岡田甲子男記念奨学金	1	1	1	46.5		
五島市奨学金	0	0	0	0		
あしなが育英会	0	0	0	0		
交通遺児育英会	0	0	0	0		
合 計	204	13,033.5	225	14,372.5		

※5年間以上県内施設に勤務した場合、返還免除

①小島特別奨学生

品行方正、徳行ある者あるいは文化的活動、体育競技等において顕著な活躍をした者に贈られる報償制度である。永年顧問であった小島兼雄先生の遺志により、教育振興資金として寄贈された浄財を基金として設立された。対象は推薦入学者で、高校長の特別推薦を受けた入学者から毎年15名を選考している。特典は、一般高校からの入学者10名は入学金（22万円）の免除、系列校からの入学者5名は入学金（22万円のうち10万円）と前期授業料等（45万円）の免除である。

②長崎女子短大特別奨学生

学業、人物共に優秀でかつ健康である者に対して特別奨学金を給付し、よりいっそうの学業成果と意欲の向上を図ることを目的として設けている奨学金制度である。入学後に3回のチャンスがあり、各学期毎に奨学金10万円、また顕著な努力が見られた学生には1万円の図書券を給付している。

長崎女子短大特別奨学生・努力賞推移表

		20年度		21年度		22年度	
		1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
前期	特別奨学生			10	5		10
	努力賞			5	5		5
後期	特別奨学生	5	10	10	5		
	努力賞	5	5	5	5		
合計	特別奨学生	5	10	20	10		10
	努力賞	5	5	10	10		5

③同時在学授業料等減免制度

奨学金制度とは若干異なるが、これも本学独自の制度で、姉妹で同時期に本学に在学する場合は、姉の授業料・教育運営費計45万円の半額を免除するというものである。制度導入後、毎年姉妹や双子の複数組が対象となっている。

平成21年度別対象者数

		20年度	21年度	22年度
姉妹（組）		3	1	1
双子（組）	1年生	0	1	0
	2年生	0	0	1

④沖縄地区特別奨学金制度

沖縄県内高校出身者で、本学に入学し若竹寮に居住する場合は、経済的負担を軽減するために寮費相当額（27万8千円）を免除する制度である。

年度	20年度	21年度	22年度
該当者	0	3	2

⑤社会人特別奨学金制度

社会人は一般的に向学心が強く、その経験から一般学生の模範となる事が期待されるため、入学時の経済的負担を軽減することで、勤労者を含めた社会人が入学し易い環境を整えることを目的として、10万円を支給する制度である。

年度	21年度	22年度
該当者	8	9

81

（6）学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生のメンタルケアやカウンセリングの体制として「学生相談室」がある。相談員の構成は、心理学の専門教員を2名と学生課の事務職員1名の計3名である。相談体制は、毎週1回平日の放課後に、専用の個室において常に2人体制で相談に応じるようにしている。相談の申し込みは、学生課窓口、相談箱、電話、メールで受け付けている。相談の内容によっては、学生本人の了解のもとで、保護者やチューター、本学の校医、心療内科の専門医等と連携を取るようにしている。その他、個人情報や相談内容の守秘義務には、十分配慮している。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

毎年、入学時に提出させている「学生住所届」、「学生累加記録」と毎年の「健康診断書」は、事務局内の保管庫で管理し必要に応じて活用している。また、進路志望調査は関係部署であるキャリア支援センターが、学生個人の日常生活を記録している「学生生活の記録」は各教員が管理している。卒業後は事務局で一括して保管しているが在学中の変更の書き換え等が十分に遂行されていない。今後、情報の一元化と保管・保護方法についての整備が急務であると考えている。

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

＜生活科学科食物栄養専攻＞

(平成22年5月1日現在)

区分		19年度		20年度		21年度	
a	卒業者数	52人		65人		42人	
b	就職希望者数	b/a	46人 88.5(%)	62人 95.4(%)	34人 81.0(%)		
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	31人 67.4(%)	43人 69.4(%)	24人 70.6(%)		
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	13人 28.3(%)	17人 27.4(%)	8人 23.5(%)		
e	就職未定者	e/b	2人 4.3(%)	2人 3.2(%)	2人 5.9(%)		
f	進学・留学希望者数	f/a	1人 1.9(%)	0人 0.0(%)	2人 0.0(%)		
g	その他	g/a	5人 9.6(%)	3人 4.6(%)	8人 19.0(%)		

＜生活科学科生活情報専攻＞

区分		19年度		20年度		21年度	
a	卒業者数	39人		37人		28人	
b	就職希望者数	b/a	35人 89.7(%)	31人 83.8(%)	25人 89.3(%)		
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	17人 48.6(%)	5人 16.1(%)	6人 24.0(%)		
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	16人 45.7(%)	21人 67.7(%)	17人 68.0(%)		
e	就職未定者	e/b	2人 5.7(%)	5人 16.1(%)	2人 8.0(%)		
f	進学・留学希望者数	f/a	2人 5.1(%)	1人 2.7(%)	0人 0.0(%)		
g	その他	g/a	2人 5.1(%)	5人 13.5(%)	3人 10.7(%)		

＜生活科学科生活福祉専攻＞

区分		19年度		20年度		21年度	
a	卒業者数	33人		26人		33人	
b	就職希望者数	b/a	30人 90.9(%)	24人 92.3(%)	33人 100.0(%)		
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	25人 83.3(%)	20人 83.3(%)	28人 84.8(%)		
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	5人 16.7(%)	4人 16.7(%)	5人 15.2(%)		
e	就職未定者	e/b	0人 0.0(%)	0人 0.0(%)	0人 0.0(%)		
f	進学・留学希望者数	f/a	1人 3.0(%)	2人 7.7(%)	0人 0.0(%)		
g	その他	g/a	2人 6.1(%)	0人 0.0(%)	0人 0.0(%)		

<幼児教育学科>

区分		19 年度		20 年度		21 年度	
a	卒業者数	96 人		108 人		100 人	
b	就職希望者数	b/a		96 人 100.0(%)		95 人 95.0(%)	
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b		64 人 66.7(%)		56 人 54.9(%)	
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b		30 人 31.3(%)		44 人 43.1(%)	
e	就職未定者	e/b		2 人 2.1(%)		2 人 2.1(%)	
f	進学・留学希望者数	f/a		0 人 0.0(%)		1 人 0.9(%)	
g	その他	g/a		0 人 0.0(%)		5 人 4.6(%)	

84

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

就職指導の中核となる組織は、学長直属の諮問機関であるキャリア支援委員会であり、メンバーは各学科・専攻を担当する4名の専任教員と1名の専従事務職員より構成されている。キャリア支援委員会は、各学科・専攻独自の就職支援活動を尊重しつつ、共通の問題に対して意見を交換し、全学的な就職支援に関して共に取り組んでいる。また、個々の学生に対するきめ細かな指導と助言は、各学科・専攻のキャリア支援委員を中心に、全チューターや2年生の卒業研究指導教員が担当している。学長は「高い就職率を維持し続ける、就職の長崎女子短期大学」をスローガンに掲げ、年4回開催される定例キャリア支援委員会に同席して、教授会、運営委員会、学科・専攻会議との連携を図り、全教職員による全学的な進路支援の体制を実現している。

平成21年度は新たに学生の就職状況を多角的（地域別・職種別の就職率）に分析できるエクセルのワークシートを作成した。

85

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

キャリア支援センターの内部は、窓口のカウンターブース、来客用の応接ブース、学生用の閲覧ブースの3つに分かれている。室内には、3台のパソコンが設置しており、学内LANを経由してインターネットが利用できる。学生は随時求人情報の検索や入社試験の受験登録が可能で、自己分析のための職業適性検査も実施できる。また、就職関連のビデオ教材を視聴するためのビデオ機器、求人票や資料をコピーするためのプリンタ複合機が設置しており、学生は無償で利用できる。就職関連の資料には、過去8年間の求人票、求人先のパンフレット、公務員試験資料、就職試験内容報告書、ビデオ教材と書籍がある。進学関連の資料には、大学案内と編入学資料が陳列してある。掲示板には最新の求人情報と就職関連のポスターが掲示しており、キャリア支援センターは長期休暇中も常時学生に開放している。平成21年度より就職関連の問題集の整備を進めている。

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

〈学長〉

過去3ヶ年の就職率は、高い数値で推移しており、「就職の長崎女子短大」といわれている面目を保ち続けている。これは、キャリア支援センター、学科・専攻別就職担当者、チューターの三位一体となったバックアップ体制によるものである。

特筆すべきは、各学科・専攻共に専門就職率の高さであろう。この高さは全国でもトップクラスと自負している。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

栄養士就職は安定しており、食に関する専門就職率も過去3年間は94%を超えている。採用条件も正社員としての採用がほとんどで、条件が整った状態で就職している。これらは、学生の積極的な就職活動のみならず、卒業生の活躍による企業からの高い評価の現れと感じている。

〈生活科学科生活情報専攻〉

平成20年度の就職希望者に対する就職率は83.8%、と過去最低の値であった。平成21年度は不況による求人数の激減により、更に悪化することが予想されたが、ガイダンスにおいて、身だしなみ、礼儀作法、エントリーシートの書き方、プレゼンテーションの仕方等の指導を強化したため、受験倍率の急増にも対応することができた。学生の就労意欲の低下等が課題の中、就職率も92.0%と上昇に繋がった。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

例年、結婚による家事従事者・進学者で就職を希望しない者（年2名程度）を除いて、就職希望者の就職率は100%である。平成21年度卒業生は、全員が介護福祉士として介護職場に就職した。事業所からは、これまでの卒業生の勤務態度が評価され、多くの求人を頂いている。

〈幼児教育学科〉

幼児教育学科の就職は、95%以上を保持しており安定している。これは、定期又は臨時のチューター面談を実施し、学生の希望に応じた就職支援の結果であると考ええる。また、このことは就職先の本学科の教育に対する評価の結果であるとも受け止めている。

就職率については平成21年度も96%以上を維持することが出来たが、一般学生に比べ、社会人入学生の就職が卒業間際まで決まらなかった経緯があった。これは、年齢等において就職先が敬遠したと考えられ、今後、社会人入学生の就職対策を検討していく必要がある。

(5) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

過去3ヶ年の進学実績は、以下の表のとおりである。進学支援の方法と体制は、就

職支援と同様に、各学科・専攻のキャリア支援委員会を中心に、全チューターや2学年の卒業研究担当教員が担当している。

学科専攻別進学者数

学科専攻		平成19年度	平成20年度	平成21年度	合 計
食物栄養専攻	大 学	0	0	1	1
	短 大	1	0	0	1
	専 門 学 校	0	0	1	1
	小 計	1	0	2	3
生活情報専攻	大 学	0	0	0	0
	短 大	0	0	0	0
	専 門 学 校	2	1	0	3
	小 計	2	1	0	3
生活福祉専攻	大 学	0	0	0	0
	短 大	0	0	0	0
	専 門 学 校	1	2	0	3
	小 計	1	2	0	3
幼児教育学科	大 学	0	0	0	0
	短 大	0	0	0	0
	専 門 学 校	0	1	0	1
	小 計	0	1	0	1

【多様な学生に対する支援について】

88

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。
 なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

多様な学生の受け入れ状況

種 別	20年度	21年度	22年度	計
留学生（人）	0	0	0	0
社会人（人）	11	8	10	29
帰国子女（人）	0	0	0	0
障害者（人）	0	0	0	0
長期履修学生（人）	0	0	0	0
科目等履修生（人）	1	8	3	12

社会人入学生の学習支援・生活支援については、チューター及び教務課、各科目の担当者が個々の学生の状況に合わせて対応している。

【特記事項について】

89

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

〈成績不良者への支援〉

成績不良の学生に対しては、各学科専攻でチューターを中心に主任、科目担当教員から情報を得るなどし、不振の原因や今後の取り組み等について面談指導を行うなどの対応をしている。また、学科専攻ごとに保護者を交えた懇談会を行うなどし、生活態度に問題のある学生への支援も行っている。

〈長期欠席者への援助〉

チューターが学生本人や保護者と連絡を取り、長期にならないための早めの対応や学校生活へ復帰できるような支援を行っている。

〈小島賞表彰制度〉

本学学生で、品行方正、徳行ある者あるいは文化的活動、体育競技等において顕著な活躍をした者に対し、卒業証書・学位記授与式にて表彰を行っている。平成21年度は、学友自治会役員11名が受賞した。

90

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

I-1 長崎女子短期大学 2011入学案内

〈参考資料〉

V-1 平成23年度募集要項

V-2 学生生活のしおり

V-3 入学式について

V-4 新入生意識調査票

V-5 学生生活総合保険関係等

II-2 COLLIGE LIFE 2010

II-3 シラバス（授業要項）平成22年度生

V-6 学生住所届

V-7 学生累加記録

V-8 学生生活の記録簿（チューター用）

V-9 進路調査票（キャリア支援センター保存用）

V-10 個人プロフィール

V-11 学籍簿

V-12 成績表

II-1 長崎女子短期大学入学案内（過去3ヶ年）

V-13 グリッター（51号・54号・57号）

《Ⅵ 研究》の記述及び資料等について

【教員の研究活動全般について】

91

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ケ年（平成19年度～21年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成19年度～21年度専任教員の研究実績表

学科・専攻名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動 の有無	社会的 活動 の有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
	江副 功	教 授	0	2	0	39	有	有	
生活科学科	食物栄養専攻	橋口 亮	0	1	0	0	有	有	
		和泉 喬	0	0	0	1	無	有	
		矢島エイ子	0	3	0	0	無	有	
		藤尾 順子	0	1	0	0	無	有	
		山口ゆかり	1	1	0	0	無	有	
		古賀 克彦	0	2	0	0	無	有	
	生活情報専攻	森 弘行	0	1	0	0	無	有	
		福間 寛	0	1	0	0	無	有	
		吉村 宗司	0	1	0	0	有	有	
		武藤 玲路	0	1	1	1	無	有	
		奈良 望	0	1	0	0	無	有	
		濱口なぎさ	0	0	0	0	無	無	
	生活福祉専攻	長尾久美子	0	2	0	0	無	有	
		金松 敏信	0	2	0	0	無	有	
		井手口弘明	0	2	0	0	無	有	
		植木 明子	0	2	0	3	無	有	
		田川 千秋	0	2	0	0	無	有	
幼児教育学科		甲斐 晶子	1	1	0	0	無	有	
		池崎 善博	0	3	0	0	無	有	
		中澤 伸元	0	1	0	0	無	有	
		山崎 純男	0	1	1	0	無	無	
		白石 景一	0	2	0	0	無	有	
		下釜 綾子	0	1	2	0	無	有	
		永野 司	0	0	1	0	無	有	
		副島 雪子	0	1	0	0	無	有	
		中嶋 一恵	1	0	0	0	無	無	
		中村 浩美	0	2	1	0	無	有	

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

毎年1回発行の「長崎女子短期大学紀要」に希望者が研究成果などを発表している。また、本紀要には学内外での各教員の研究・教育・社会活動の実績も掲載している。公開という観点から、今後は本学ホームページにも公開する方向で検討中である。

(3) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	0	0	0	0	1	1
大学改革推進等補助金	0	0	0	0	2	1

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

食物栄養専攻では、専攻内教員および他学科の教員との共同研究に積極的に取り組んでいる。短期大学の場合、個人研究には限度があり、しかも研究にあてられる時間がきわめて少ないため、できる限り共同研究を行い、お互いの専門を活かす努力をしている。成果は本学紀要第34号に掲載している。

生活福祉専攻では、平成21年度の共同研究として、新しい取り組みについて「介護福祉教育研究会（第1報）」及び「潜在的有資格者等養成事業実施報告」の2編について本学紀要第34号に掲載した。今後も、共同研究を行い内容を深めていきたい。

幼児教育学科では、「保育者養成の現状と課題」～本学科における学生指導の現状を踏まえて～のテーマで教員全員で取り組み、本学紀要第34号に掲載している。このテーマについて今後も取り組んでいく。

【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規程等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の決算書から研究に係る経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等）ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

本学の「研究助成費配分内規」に沿って、年度初めに研究費が個人枠、学科専攻枠、全体枠で配分される。

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

「長崎女子短期大学紀要」の発行と、学内研究発表会を年に一回実施している。紀要には論文の他に、研究活動等実績報告として、学外での研究活動、教育活動、社会活動実績及び当該年度に取り組んだ各人の研究テーマを掲載している。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

分 類	個人研究費	学科専攻	外部調達資金	合 計
研究費	613,583	852,042	-	1,465,625
研究旅費	498,782	471,950	200,320	1,171,052
教育研究機器備品	740,000	5,250	1,128,462	1,873,712
図書費	333,416	181,350	-	514,766
合 計	2,185,781	1,510,592	1,328,782	5,025,155

個人分は専任教員1人8万円・特別専任教員1人4万円とし、さらに、学科専攻枠、そして短大全体枠という形で配分されている。前年度3月学生数がほぼ決定するとともに新年度予算を決定する。新年度早々専任教員より研究費の申請書を提出してもらい、特に学科専攻枠と全体枠の調整を行って配分を決定する。ただし、奨励研究費については別途予算立てを行うようにしているが、今年度は申請がなかった。研究旅費は一定の枠があるが、学会発表の場合は支援の為に別途支出するようにしている。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

研究室は教員1名1室を配置している。また、学科専攻別に準備室を設け資料の保管や会議用として利用されている。ただし食物栄養専攻では、助手室や機器室等が必要でスペースに制限があるため、準備室は設けていない。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

週休2日制導入時点より、特別に研修日を設けていない。授業時数確保、授業外実務の処理、学生指導時間確保を優先していることは否めない。「研究成果を発表する機会の確保」という観点から、研究時間および学外での学会発表活動機会を確保した

いと考えているが、教員は前記業務外で各自研究時間を作っているのが現状である。

【特記事項について】

100

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

101

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

Ⅲ-1 教員の個人調書（①履歴書 ②教育研究業績書）

Ⅵ-1 長崎女子短期大学 紀要（過去3ヶ年）

Ⅵ-2 研究助成費配分内規

Ⅵ-3 研究費決算書（平成19年度～平成21年度）

《Ⅶ 社会的活動》の記述及び資料等について

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

102

（１）社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

建学の精神に基づく教育目標にあるように、コミュニティ・カレッジとしての短大の特色を出すために、社会的活動の積極化を進めている。平成20年度までは、各学科専攻で企画された講座を事務局でまとめ運営してきたが、平成21年度からは生涯学習推進委員会を組織した。多面的な視野の元、公開講座だけでなく、平常授業の受講を可とする開放講座数の増加についても検討を重ね、平成22年度より「ながさき県民大学」に登録している。このような取り組みにより、生涯学習を推進する短大として評価が定着してきており、地域の一般の方々から本学の講座への問い合わせが増加している。

また、本学教員が保有する豊富な知識・技術を地域社会の様々な場面で提供すると共に、地域社会から得た生きた教材を教育の場に生かしていくことを目的として、出前授業や地域からの講師派遣の要請においても積極的に応じるようにしている。

103

（２）社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人受け入れについては積極的に行っており、生涯学習または資格取得のため、毎年10名程入学している。社会人特別奨学金制度を平成20年度より導入し、経済的負担の軽減を図ることで入学しやすい環境を整えた。これからも社会人の受け入れについて積極的に取り組んでいく予定である。

104

（３）過去３ヶ年（平成19年度～21年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

〈公開講座〉

公開講座の実施状況は以下の通りである。

○平成19年度

テーマ	期日	内 容	受講数
長崎の郷土料理 （五島地区）	6/23 （土）	長崎の食育を取り入れた郷土料理シリーズ 生活科学科食物栄養専攻教員	19名
現場ですぐ役立つ 福祉レクリエーション講座	7/22 （日）	演習「回想法：お年寄りから学ぶ昔遊び」 実技「地域で活かす昔遊び」講師 井手口弘明	24名
保育セミナー	8/22 （水）	「保護者とのコミュニケーション技法」	37名
	8/29 （水）	「いろいろなリズム遊びと身体表現への展開」 幼児教育学科教員	34名

長崎よか膳「薬膳料理」	2/16 (土)	学生の卒業研究テーマ「長崎よか膳」献立を一般に試食提供 生活科学科食物栄養専攻教員	37名
-------------	-------------	---	-----

○平成20年度

テーマ	期日	内 容	受講数
長崎の郷土料理 (県央地区)	6/28 (土)	長崎の食育を取り入れた郷土料理シリーズ 生活科学科食物栄養専攻教員	28名
現場ですぐ役立つ福祉レ クリエーション講座	6/29 (日)	演習「回想法：懐かしの昔遊び」 実技「創作工芸：手作りメッセージ」 講師 井手口弘明	29名
保育セミナー	8/20 (水)	「子どもを育む環境」 植物を育てる・絵本の読み聞かせ 幼児教育学科教員	31名
	8/27 (水)		29名
健やかな毎日を送るために	10/18 (土)	講演「足の健康科学」 教授 山崎純男 演習「自分でできるフットケア」 講師 植木明子	44名
介護の日「介護公開講座」 体験学習	11/11 (火)	高齢・障害者車椅子お買物体験 高齢者とのふれあい体験 生活科学科生活福祉専攻教員	11名
長崎よか膳 「長崎の伝統野菜料理」	2/14 (土)	学生の卒業研究統一テーマ「長崎よか膳」献立を一般に試食提供 生活科学科食物栄養専攻教員	49名

○平成21年度

テーマ	期日	内 容	受講数
長崎の郷土料理 (県北地区)	6/27 (土)	長崎の食育を取り入れた郷土料理シリーズ 生活科学科食物栄養専攻教員	28名
回想法を用いて「共感」す ることの大切さを学ぶ	6/27 (土)	福祉レクリエーションとは 演習「回想法：懐かしの昔遊び」 手話の歌を聴こう 講師 井手口弘明	47名
保育セミナー	8/27 (木)	保護者とのコミュニケーション技法 講師 小林小夜子	新型イン フルエン ザ流行の ため中止
		楽しいリズム遊びと親子遊び 講師 下釜 綾子	
福祉・介護サービスチャレ ンジ「らくらく介護講座」	10/17 (土)	社会の動向と介護 介護実践 福祉用具の実際 講師 植木明子	39名
長崎よか膳試食会 「長崎の伝統野菜料理」	2/6 (土)	学生の卒業研究統一テーマ「長崎よか膳」献立を一般に試食提供 生活科学科食物栄養専攻教員	47名

〈生涯学習講座〉

一般社会人を対象とした生涯学習講座「鶴鳴アカデミア」を、長崎県主催の「ながさき県民大学」と連携して開催し、地域の人々に学びの場を提供している。

○平成19年度鶴鳴アカデミア

回数	期日	内 容	受講数
第1回	6/9	開講式・オリエンテーション 「生涯学習と源氏物語」 学長 田中正明	60名
第2回	7/14	「私はなぜ詩人になったのか」 詩人 高塚かず子	31名
第3回	9/8	「長崎の現代文学を歩く」 佐世保高等専門学校教授 田崎弘章	40名
第4回	10/13	「長崎の食文化」 本学教授 脇山順子	37名
第5回	11/10	「古典シリーズ 伊勢物語より ～妹斎の宮、兄惟喬宮そして業平～」 長崎女子高等学校教頭 鈴木賢二	52名
第6回	12/8	「歌とピアノとチェロで楽しいひと時を」 本学教授 中澤伸元、准教授 白石景一、 講師 中村浩美、非常勤講師 森実智代	69名

○平成20年度鶴鳴アカデミア

回数	期日	内 容	受講数
第1回	11/8	「相田みつをと書」 学長 江副 功	46名
第2回	12/13	「長崎女子短期大学における食育の取り組み」 ～長崎食育学について～ 教授 橋口 亮	35名

○平成21年度

会員の高齢化や会場の問題で、平成21年度は開催しなかったが、生涯学習推進委員会で、「公開講座」「開放講座」等の整理を行った。

〈正規授業の公開〉

食物栄養専攻の授業科目「長崎食育学」及び生活情報専攻の授業科目「ウェブデザイン」「異文化間コミュニケーション論」の3科目を一般への開放授業としている。過去3年間、一般の受講者はいなかったが、長崎県内大学間の単位互換制度を利用して「ウェブデザイン」に2名の受講者があった。

〈リカレント講座〉

生活福祉専攻で実施している「介護技術講習会」は実務経験3年以上の介護福祉士国家試験受験希望者が対象である。食物栄養専攻で実施している「管理栄養士受験対策講座」は本学卒業生が対象である。

○平成19年度

講 座 名	実 施 日	受講者数
介護技術講習会	第1回：5月19日、20日、6月2日、3日	35名
〃	第2回：6月23日、24日、7月7日、8日	39名
〃	第3回：8月25日、26日、9月8日、9日	37名
管理栄養士受験対策講座	8月25日、9月8日、10月13日、11月10日 12月8日、1月12日、2月9日、3月8日	31名

○平成20年度

講 座 名	実 施 日	受講者数
介護技術講習会	第1回：5月17日、18日、31日、6月1日	16名
〃	第2回：6月21日、22日、7月5日、6日	27名
管理栄養士受験対策講座	8月23日、9月20日、10月11日、11月8日 12月13日、1月10日、2月7日、3月7日	21名

○平成21年度

講 座 名	実 施 日	受講者数
介護技術講習会	第1回：7月11日、12日、8月1日、2日	36名
管理栄養士受験対策講座	8月22日、9月12日、10月10日、11月10日、 11月28日、12月12日、1月16日、1月23日、 2月13日、3月6日	23名
キャリアアップ支援研修	8月22日、29日、30日	41名
潜在的有資格者 再就業 支援事業	11月14日、15日	9名

105

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

地域の高校からの要請を受けて実施される出前講座には専門の教職員が出向き、分かりやすい授業を行うよう努めている。さらに、短期大学の現況報告を始め、本学が目指す教育、学生の動向についての理解を深めてもらうために年に1回、県内高校との教育懇談会を実施している。これらの交流により、高校との連携がより密接になることを期待している。

また、教員の多くは、自治体等からの専門分野関連事業における講習会講師、審議会委員、各種団体審査委員等の委嘱を受けており、地域社会との連携を積極的に行っている。短大所在の自治会とは、本学弥生祭（短大祭）時に、町民による文化作品の展示場を設け交流を図っている。

【学生の社会的活動について】

106

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

ボランティア活動など本学へ依頼がある場合は、担当教員がその内容を把握し、それによる教育効果を期待して積極的に参加するよう指導している。

〈生活科学科食物栄養専攻〉

本専攻学生は平成19年～平成21年まで毎年「長崎市農業センター祭り」に参加している。また、11月の「長崎実りと恵の感謝祭」で、JA長崎中央会とのコラボレーション企画で、長崎の食材と料理の広報活動に参加した。

〈生活科学科生活情報専攻〉

1年次春休みに「キャリアアップセミナー1」の授業の一環として、全員にボランティア活動を義務付けている。活動後にはボランティア活動報告書を提出させ、学生の自己点検評価に活用している。平成21年度も福祉施設や観光施設、官公庁等でコミュニケーション力や社会性の向上を目指して奉仕活動を体験した。その結果、ほぼ全員が人間的な触れ合いを通して、奉仕の心の意義を痛感し、人間的成長を遂げたようである。

〈生活科学科生活福祉専攻〉

ボランティアは、介護福祉士として大切な現場経験となるため、協力依頼には積極的に応じている。福祉施設等の夏まつりや敬老会等への参加の他に、音楽ボランティア部が独自の施設訪問活動を行っており、平成21年度は、延べ55名の学生が参加した。この他、日本レクリエーション協会全国大会に、1年生27名が大会運営のボランティアスタッフとして参加した。

〈幼児教育学科〉

本学科では、障害児・者施設や保育所などからボランティア要請があり、学生には積極的に参加するよう呼びかけている。また卒業研究の一環として、毎年「クリスマスこども大会inアルカス佐世保」に参加し、子どもたちの前で歌の発表を行っている。平成21年度は、国立病院機構長崎病院及び長崎医療センターの入院患者に、慰問演奏会を実施した。また、日本レクリエーション協会全国大会に、64名が大会運営のボランティアスタッフとして参加した。今後もこのような活動を継続していきたいと考えている。

107

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

いずれの学科・専攻とも学生のボランティア活動が行われており、社会に貢献できる人材育成の場として有用であると考えている。これは、コミュニティカレッジを目指す本学の教育方針にもかなっていると考ええる。

【国際交流・協力への取組みについて】

108

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

○モナッシュ大学への短期留学

年 度	日 程	留学者数	
平成19年度	平成20年2月28日～3月21日	12名	生活情報専攻6名 長崎大学より6名受け入れ
平成20年度	平成21年2月26日～3月21日	14名	生活情報専攻3名 食物栄養専攻3名 長崎大学より8名受け入れ
平成21年度	新型インフルエンザ流行のため中止した		

注) 留学者数にはジョイント校からの参加者も含む。

109

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

海外に提携している姉妹校がないため、定期的な交流は行われていない。
ただ、機会があれば積極的に対応したいと考えている。最近の実績は以下のとおりである。

- 1.交流教育機関：韓国ポラリス幼児教育機関日本研修団
- 2.交流日時：第1回目 平成19年7月30日13:30～15:00 団員120名
第2回目 平成19年8月1日13:30～15:00 団員40名
- 3.交流内容 (1) 附属幼稚園見学、幼稚園教員との意見交換
(2) 本学見学(特に幼児教育学科関連施設・設備)
(3) 幼児教育学科教員との交流会
①実践「手遊びしましょう」・・・グループ別指導を行う。
②全体での意見交換会

110

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

学長 江副功教授が日韓交流書藝展に出品した。

日程：平成21年11月6日～11月15日

場所：韓国釜山

展覧会主催：韓国釜山ビアンナーレ

食物栄養専攻 橋口亮教授が研究試作品を国際見本市に出品した。

日程：平成22年2月20日～3月3日

場所：アメリカ ニューヨーク

会議：International Restaurant & Food Service Show In New York

【特記事項について】

111

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

一般高校から依頼される出前講座がここ数年増加の傾向にある。依頼があった講座には日程を調整しながら必ず出向くようにしており、積極的な取り組みができています。平成21年度の実績は以下の通りである。

月 日	高校名	授業内容
7月 2日	県立松浦高校	「栄養士の役割」について授業、3年生24名が受講
9月16日	県立西彼農業高校	「今求められる人（福祉人材）」・「介護実技の基本動作」について授業、福祉コース11名が受講
9月22日	県立島原農業高校	「今求められる人（福祉人材）」・「介護実技の基本動作」について授業、福祉コース25名が受講
3月 4日	県立長崎鶴洋高校	「福祉・歌って覚える楽しい手話・支えってなに」について授業、福祉コース1年生17名が受講
3月19日	県立西彼杵高校	キャリア教育ガイダンスで「人に教える」について授業、35名が受講

112

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

Ⅶ-1 平成23年度募集要項

Ⅶ-2 長崎女子短期大学社会人入試制度リーフレット

〈参考資料〉

Ⅶ-1 モナッシュ大学短期留学実施要項

《Ⅷ 管理運営》の記述及び資料等について

【法人組織の管理運営体制について】

113

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

日常的な短期大学の運営については学長統括の教授会、運営委員会で協議される。重要事項については、理事長の諮問機関である学園合同会議（p.75参照）で学長より報告され、そこでの協議・調整を経てその結果は理事会に反映される。少子化等による厳しい経営環境に直面しているが、理事長以下一丸となって目標達成に取り組んでいる。

これまでも短期大学においては入学生の減少による財務面の悪化が表面化した。が、理事会の支援を得ながら理事長のリーダーシップのもと、収支改善施策への取り組みと共に新たな専攻の設置等を経て改善に至った経緯がある。

変化の激しい社会情勢の中での経営判断は非常に難しいものがあるが、教学の理解を得ながら、常に早い段階での対応を心がけている。

114

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成22年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

〈平成19年度〉

年	月	日	主な議案	出席数	定員
19	5	24	①平成18年度事業報告 ②平成18年度決算報告 ③長崎女子高等学校特待生制度 ④長崎女子高等学校授業料減免規程の改正 ⑤報告事項 ・現況報告 ・小島特別奨学基金の運営状況	理事8 (内委任状2) 監事2	8 2
19	7	5	①長崎女子高等学校特待生制度	理事7 監事2	8 2
19	10	17	①平成20年度学納金 ②監査法人の変更 ③報告事項：現況報告	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2

19	12	13	①長崎女子短期大学教員の昇任人事 ②長崎女子短期大学附属幼稚園園則の一部変更 ③報告事項：現況報告	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
20	3	5	①長崎女子短期大学学則の一部変更	理事7 監事2	8 2
20	3	27	①平成19年度予算の補正 ②平成20年度事業計画 ③平成20年度予算 ④学園人事 ⑤報告事項：現況報告	理事8 (内委任状2) 監事2	8 2

〈平成20年度〉

年	月	日	主な議案	出席数	定員
20	5	20	①平成19年度事業報告 ②平成19年度決算報告 ③報告事項 ・ 現況報告 ・ 小島特別奨学基金の運営状況	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
20	9	10	①長崎女子短期大学学則の一部変更	理事7 監事2	8 2
20	9	30	①任期満了に伴う理事の選任 ②任期満了に伴う監事候補者の選出 ③任期満了に伴う評議員の推薦・選任	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
20	10	1	①任期満了に伴う理事長の選任 ②平成20年度予算の補正 ③平成21年度学納金 ④報告事項：現況報告	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
20	12	9	①報告事項 ・ 現況報告 ・ 耐震化に関する事項	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
21	2	25	①長崎女子短期大学学則の一部変更	理事7 監事2	8 2
21	3	27	①平成20年度予算の補正 ②平成21年度事業計画 ③平成21年度予算 ④学園人事 ⑤報告事項：現況報告	理事8 (内委任状2) 監事2	8 2

〈平成21年度〉

年	月	日	主な議案	出席数	定員
21	5	20	①平成20年度事業報告 ②平成20年度決算報告 ③報告事項 ・現況報告 ・小島特別奨学基金の運営状況	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
21	10	5	①平成22年度学納金 ②平成21年度予算の補正 ③長崎女子短期大学学則の一部変更 ④報告事項 ・現況報告 ・耐震化について	理事7 監事2	8 2
21	12	8	①長崎女子高等学校の入学金減免制度 ②長崎女子短期大学学則の一部変更 ③報告事項：現況報告	理事8 (内委任状1) 監事2	8 2
22	3	26	①平成21年度予算の補正 ②平成22年度事業計画 ③平成22年度予算 ④長崎女子高等学校奨学金規程の改訂 ⑤学園人事 ⑥報告事項：現況報告	理事8 (内委任状2) 監事2	8 2

〈理事会に関する寄附行為上の規定〉

寄附行為 第6条～7条、第9条～14条、第16条に次の通り規定されている。

(役員)

第6条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 8人

(2) 監事 2人

2 理事のうち1名を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

3 役員の選任にあたっては、その管理及び運営に適正を有するもので、各役員についてその親族、その他特別の関係がある者がそれぞれの役員等の数の内に占める割合が3分の1以下とする。

(理事の選任)

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

(1) 長崎女子短期大学の学長

(2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

(3) 学識経験者のうち理事会において選任した者 3人

- 2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(役員任期)

第9条 役員（第7条第1項第1号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は2年とする。ただし、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員は、再任されることができる。

- 3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行なう。

(役員補充)

第10条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたときは、1月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

第11条 役員が次の各号の1に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき

(3) 職務上の義務に著しく違反したとき

(4) 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき

- 2 役員は次の事由によって退任する

(1) 任期の満了

(2) 辞任

(3) 学校教育法第9条各号に掲げる事由に該当するに至ったとき

(理事長職務)

第12条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(理事の代表権の制限)

第13条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第14条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に従い、理事がその職務を代理し、又はその職務を行なう。

(理事会)

第16条 この法人に、理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

- 3 理事会は、理事長が招集する。

- 4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。

- 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

- 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。
- 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りでない。
- 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

115

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

〈学園合同会議〉

理事長の諮問機関として位置付けられる学園合同会議を設置している。学内理事と各部門の幹部職員により構成され、毎月1回定例的に開催している。ここでは学園（理事会）と短大・高校・幼稚園の教学が一体となって問題意識の共有を図っている。日常的な学生・生徒等の動向あるいは保護者からの要望等について共有すると共に、理事会提案事項等の調査研究、企画立案、調整を行うなどの機能をも果たしている。

〈構成員〉理事長、学園長、副理事長、短大学長、高校長、幼稚園長、高校副校長
法人本部長、高校教頭、短大事務長、高校事務長

平成21年度学園合同会議開催状況

年	月	日	主な議案・報告事項	出席数	定数
21	5	12	①部門別基本方針の骨子 ②理事会・評議員会議案 平成20年度事業報告、決算報告、現況報告 ③部門別報告	11	11
21	6	17	①平成21年度事業計画の重点事業 ・高大連携教育の推進事業 ・幼大連携教育の推進事業 ・その他重点事業 ②部門別報告事項	11	11
21	7	22	①長崎女子高等学校の推薦入試志願者増対策 ②耐震診断に関する事	11	11

21	7	22	③平成22年度募集計画等 ④部門別報告		
21	8	11	①部門別報告 ②ビデオ視聴 ・長崎女子高等学校「私学で輝く」 ・長崎女子短期大学「キャンパスマップ」	11	11
21	9	16	①理事会・評議員会議案 ・平成22年度学納金 ・平成21年度予算の補正 ・現況報告など ②部門別報告	10	11
21	10	20	①募集見通し ②長崎女子高等学校の推薦入学者入学金減免制度 ③部門別報告	10	11
21	11	24	①理事会・評議員会議案 ・長崎女子高等学校の入学金減免制度 ・長崎女子短期大学学則の一部変更 ・現況報告 ②部門別報告	11	11
22	1	19	①募集状況 ②部門別報告	10	11
22	2	23	①募集状況 ②部門別報告 ③高等学校等就学支援金	11	11
22	3	18	①理事会・評議員会議案 ・平成21年度予算の補正 ・平成22年度事業計画 ・平成22年度予算 ・長崎女子高等学校奨学金に関する規程 ・学園人事 ・現況報告 ②部門別報告	10	11

116

（４）監事の業務についての寄附行為上の規定、平成２１年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

〈監事の業務に関する寄附行為上の規定〉

寄附行為第8条、第15条に以下の通り規定されている。

(監事の選任)

第8条 監事は、この法人の理事、職員（学長、教員その他の職員を含む。以下同じ。）又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

(監事の職務)

第15条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う

- (1) この法人の業務を監査すること
- (2) この法人の財産の状況を監査すること
- (3) この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び評議員会に提出すること
- (4) 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること
- (5) 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること
- (6) この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

監事は毎回理事会に出席して業務を監査すると共に、財産の状況を監査し、監査報告書を作成し、提出している。

なお、平成17年4月1日付の私立学校法の改正で監事制度が強化されたことの趣旨を踏まえ、平成21年度からは、学園合同会議の構成員に加わることにしている。

117

(5) 平成21年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会の開催状況は以下の通りである。（平成21年度）

年	月	日	主な議案	出席数	定数
21	5	20	①平成20年度事業報告 ②平成20年度決算報告 ③報告事項 ・現況報告 ・小島特別奨学基金の運営状況	評議員17 (内委任状2) 監事2	17 2
21	10	5	①平成22年度学納金 ②平成21年度予算の補正 ③長崎女子短期大学学則の一部変更 ④報告事項 ・現況報告 ・耐震診断について	評議員16 監事2	17 2
21	12	8	①長崎女子高等学校の入学金減免制度 ②長崎女子短期大学学則の一部変更 ③報告事項	評議員17 (内委任状1) 監事2	17 2

			・ 現況報告		
22	3	26	①平成21年度予算の補正 ②平成22年度事業計画 ③平成22年度予算 ④長崎女子高等学校奨学金規程の改訂 ⑤学園人事 ⑥報告事項 ・ 現況報告	評議員17 (内委任状2) 監事2	17 2

〈評議員会に関する寄附行為上の規定〉

寄附行為第19条～25条に次の通り規定されている。

(評議員会)

第19条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は17人の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第20条 第18条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員2人以上」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第21条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- (2) 事業計画
- (3) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

- (4) 寄附行為の変更
- (5) 合併
- (6) 目的たる事業の成功の不能による解散
- (7) 収益事業に関する重要事項
- (8) 寄付金品の募集に関する事項
- (9) 学長の選任
- (10) 学則の変更
- (11) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
(評議員会の意見具申等)

第22条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第23条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者 5人
 - (2) この法人の設置する学校を卒業した者で年齢25年以上の者のうちから、理事会において選任した者 5人
 - (3) 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 7人
- 2 前項第1号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。
- 3 評議員の選任にあたっては評議員についてその親族その他特別の関係がある者が評議員の内に占める割合が3分の1以下とする。

(任期)

第24条 評議員の任期は、2年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第25条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の3分の2以上の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき
 - (2) 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき
- 2 評議員は次の事由によって退任する。

- (1) 任期の満了
- (2) 辞任

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えのない範囲で記述して下さい。

少子化は依然として続くことになるが、今後は緩やかな減少で推移する。しかしながら、限られた入学年齢人口の中で厳しい運営を強いられることは間違いない。このような状況下で、学園の存続を図る困難さがあるが短期大学、高等学校、幼稚園を擁する総合学園であることでの地域における存在を高めていくことが大切である。高大連携、幼大連携についてはこれまでも取り組んでいるが、なお一層推し進めることが課題である。

今後は、学生、生徒、園児の確保には限界が予想されることも視野においておかなければならない。教職員体制、施設設備、カリキュラム等については常時見直し点検を行い、適正規模での運営を心がける必要がある。また、常に財務の健全化に努めると共に、教職員一人ひとりが危機意識を持って日常の業務に取り組むことが大事である。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

学長の役割である「学長は本学の教学を統括し、所属教職員を統率する」は、十分に承知し、教員の行う教育・研究活動や学生指導状況及び学生支援について常時把握し、充実した教育環境づくりに邁進している。また、教育・研究上の事項は各学科・専攻毎及び委員会で検討をし、学長が議長を務める運営委員会において初段階の検討がなされる。その後、教授会で審議し、決定している。

学長選考、選任については「長崎女子短期大学学長任用規程」に基づき、理事会の議による。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成21年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。
なお、学則を添付して下さい。

教授会は学則第九章第42条にて「本学に重要事項を審議するため教授会を置く。」と定められている。具体的には以下の通りである。

(教授会)

第42条 本学に重要事項を審議するため教授会を置く。

2 教授会は学長および教授をもって組織する。但し、必要と認めるときは、准教授、講師その他の職員を加えることができる。

- 3 教授会は次の事項を審議する。
- (1) 学校教育法施行規則67条に関する事項
 - (2) 授業科目の種類及び教育課程編成に関する事項
 - (3) 学生の試験ならびに単位認定に関する事項
 - (4) 学生の賞罰に関する事項
 - (5) 聴講生に関する事項
 - (6) その他本学教育研究に関する事項
- 4 本条に定めるもののほか、教授会に関し必要な事項は、別に定める。

平成21年度教授会開催記録

年	月	日	主な審議・報告事項	出席数	定数
21	4	2	議案 ①平成21年度前期特別奨学生について ②平成21年度学年暦について 報告 ①平成21年度学内組織図について ②研究費・実験実習費の申請について ③「現代社会と女性」について ④その他	27名	27名
21	4	7	議案 ①退学願・休学願について	27名	27名
21	4	24	議案 ①休学者・科目履修生入学願いについて ②平成21年度学生募集結果について ③平成22年度学生募集について（高校訪問計画等） 報告 ①退学・休学について ②卒業式・入学式の総括について ③教務マニュアルについて ④その他（行事予定等）	26名	27名
21	5	28	議案 ①退学願について ②退学・休学用チューター所見について ③平成20年度就職状況 ④学生募集について ⑤研究助成費・実験実習費について ⑥学園理事会での現況報告について ⑦長崎女子高校との連携について ⑧初年次教育について ⑨教育懇談会について 報告 ①「現代社会と女性」について ②相互評価について ③公開講座について ④チューターミーティングについて	27名	27名

21	6	26	議案 ①学生募集について 報告 ①学園合同会議について ②教育懇談会について ③改革評価委員会について ④大学教育・学生支援推進事業について ⑤紀要図書委員会について ⑥その他	25名	27名
21	7	30	議案 ①退学願・休学願について 報告 ①学生募集について ②学園合同会議について ③関係高校との教育懇談会について ④改革評価委員会について ⑤弥生祭について ⑥「現代社会と女性」芸術鑑賞について ⑦その他（夏季休暇中の予定・卒業生アンケート・新型インフルエンザ・県外高校訪問）	27名	27名
21	9	30	議案 ①退学願・復学願について ②科目履修生入学願について ③後期特別奨学生について ④後期時間割について ⑤平成22年度幼児教育学科カリキュラム変更について 報告 ①学生募集について （オープンキャンパス第1回～3回の結果・第3回高校訪問・長崎女子高校2年生体験学習） ②改革評価委員会について ③その他（創立記念日・大学教育学生支援事業・学生委員会）	26名	26名
21	10	29	議案 ①退学願・休学願・復学願について ②推薦入試について ③第4回高校訪問について 報告 ①推薦出願状況 ②長崎女子高校2年生体験学習アンケート結果について ③学校見学会について ④弥生祭について ⑤その他（紀要の原稿提出・改革評価委員会・学長諮問会議）	26名	26名
21	11	10	議案 ①昇任申請者の資格審査について	8名	8名
21	11	17	議案 ①昇任申請者の資格審査について（第2回）	8名	8名

21	11	12	議案 ①推薦入試合否判定について ②小島特別奨学生について ③主要高校への推薦入試結果の報告について ④その他	24名	26名
21	11	26	議案 ①退学願・休学願について ②生活福祉専攻の名称変更・カリキュラム変更について 報告 ①推薦入試結果と今後について ②入学予定者への課題提出について ③教員の研究活動について ④その他（弥生祭・看板・駐車場カード・モナッシュ大学短期留学中止）	25名	26名
21	12	18	議案 ①自己推薦2期入試第1回合否判定について 報告 ①推薦入試合合格者手続き結果について	26名	26名
21	12	24	議案 ①自己推薦2期入試第2回合否判定について ②休学願について 報告 ①推薦入試合合格者手続状況 ②理事会報告 ③SD研修会 ④小島賞推薦 ⑤弥生祭総括 ⑥学年暦（新年教職員会・研究成果発表会 卒業判定会議・平成22年度入試） ⑦その他（停電・自己推薦2期第3回入試・紀要図書委員会・学長挨拶）	26名	26名
22	1	8	議案 ①自己推薦2期第3回入試合否判定について	26名	26名
22	1	28	議案 ①自己推薦2期第4回・第5回・第6回入試合否判定について ②前期入試について ③学則と単位認定規程の変更について ④後期試験時間割について ⑤平成22年度学年暦・弥生祭について 報告 ①入学者手続き状況 ②学内研究成果（又は経過）発表会、FD研修会について ③その他（紀要編集～発行予定・卒業記念パーティー・卒業記念品・県の介護福祉士養成補助事業・2月教授会・改革評価委員会）	26名	26名
22	2	12	議案 ①一般前期入試合否判定について 報告 ①その他（小島賞・学校見学会・相互評価・モナッシュ大学短期留学中止）	26名	26名

22	2	22	議案 ①退学願・休学願について ②卒業証書・学位記授与式について ③改革評価委員会について ④学内研究成果（又は経過）発表会について 報告 ①入学者手続き状況について ②教職員の異動について ③シラバスについて ④平成22年度長崎女子高校体験学習の日程について ⑤その他（小島賞・卒業記念品・自己点検報告書・卒業記念パーティー・紀要発行）	23名	26名
22	3	9	議案 ①卒業判定について ②平成22年度前期時間割について 報告 ①入学者手続き状況 ②学科専攻別教員組織について ③オープンキャンパスの日程 ④その他（改革評価委員会・工事報告・紀要発行・卒業記念品納入済み）	25名	26名
22	3	18	議案 ①自己推薦2期第7回入試合否判定について ②一般後期入試合否判定について 報告 ①改革評価委員会（総括・諸規程・第2回第三者評価）	24名	26名
22	3	25	議案 ①後期入試手続き状況について ②平成22年度前期特別奨学生について 報告 ①平成22年度について （入学式・オリエンテーション・委員会委員・各職務担当者・非常勤講師の異動・学年暦（勤務日・休日・公開講座） ②諸規程整備について ③危機管理対応の連絡網整備 ④学内庶務（伺書・公印管理台帳） ⑤その他（教職員会・学長あいさつ）	24名	26名
22	3	31	議案 ①自己推薦2期第8回入試合否判定について ②退学願・休学願・科目履修生入学願について	26名	26名

構成メンバーは、長崎女子短期大学学則第九章第42条2に基づき以下のとおりである。

学 長：江副 功

生活科学科：和泉喬・橋口亮・森弘行・長尾久美子・金松敏信・吉村宗司
武藤玲路・濱口なぎさ・井手口弘明・植木明子・藤尾順子
山口ゆかり・古賀克彦・田川千秋

幼児教育学科：甲斐晶子・白石景一・下釜綾子・小林小夜子・永野司・副島雪子
中嶋一恵・中村浩美

事務局：松尾信之・高井達司

法人本部：原田雄司・平野政利

なお、幼児教育学科の小林小夜子准教授が年度途中の8月末退職の為、9月教授会より定数が26名となった。

121

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成21年度の開催状況等を記述して下さい。

委員会等	根拠・規程	主な業務	構成メンバー	開催状況
運営委員会	運営委員会規程 (平成21年度に整備)	本学運営の中枢をなす学長直属の委員会である。週1回の開催を原則としている。全員が多忙なため、入試委員会を兼務することで、運営委員会の機能をより高め、輻輳した問題へも速やかに対処できるようにしている。通常は入試・運営委員会と称している。ここで議論されまとめられたものが原案として教授会に提出されることになる。 学科専攻別の教育活動や行事、学生募集活動等細かく多岐にわたる問題について、企画、実践、評価(問題発見)の繰り返しを行い、その内容を深めている。このように、年間で約30回になる入試・運営委員会が、本学における日常業務点検・見直しの実際の場となっている。	学長、学科・専攻主任4名、学生部長、改革評価委員長、生涯学習推進委員長、事務長、学務課長、副理事長、法人本部長	36回
入試委員会	入試委員会規程 (平成21年度に整備)			
改革評価委員会	改革評価委員会規程(平成21年度に整備)	・自己点検・評価、第三者評価、相互評価に関する事項についての企画・立案	委員長を除いて、各学科・専攻教員1名ずつ、短大事務員1名、法人本部事務員1名	26回
企画広報委員会	企画広報委員会規程(平成21年度に整備)	広報活動全般に関する事項を企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ、事務員2名	5回
キャリア支援委員会	キャリア支援委員会規程	学生の進路全般に関する事項について企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ、キャリア支援センター職員1名	4回
生涯学習推進委員会	生涯学習推進委員会規程(平成21年度に整備)	公開講座等の生涯学習推進に関する事項や、教養教育について企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ、事務員1名	5回

学生相談室	学生相談室規程 (平成21年度に整備)	学生が学業遂行にあたって、支障となる問題（セクシュアル・ハラスメントを含む）の解決を図るため、学内外の関係機関と連携をとりながら指導助言を行って支援する。また、支援にあたってはチューターなどの「教育者の相談」に応ずるという位置づけも有する。	心理学担当教員 2名、事務員1名	5回
紀要図書委員会	紀要図書委員会規程（平成21年度に整備）	図書館の運営、図書購入に関する事項を企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ、事務員1名・司書1名	8回
教務委員会	教務委員会規程（平成21年度に整備）	教務全般に関する事項を企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ、事務員1名	12回
学生委員会	学生委員会規程（平成21年度に整備）	学生生活についての全般的な活動に関する事項について企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ・事務員1名	44回
寮務委員会	寮務委員会規程	寮の運営に関する事項について企画・立案する。	各学科・専攻教員1名ずつ・寮監1名	6回

122

（４）短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

定員未充足が続く深刻な問題となっており、対策を講じる必要があると考えている。様々な要因があると考えられるが、まず、入学者にとってわかりやすい専攻名にすることから取り組むことにした。生活福祉専攻において、介護福祉士養成施設として明確に分かるように、平成22年度より「介護福祉専攻」に変更することにした。

【事務組織について】

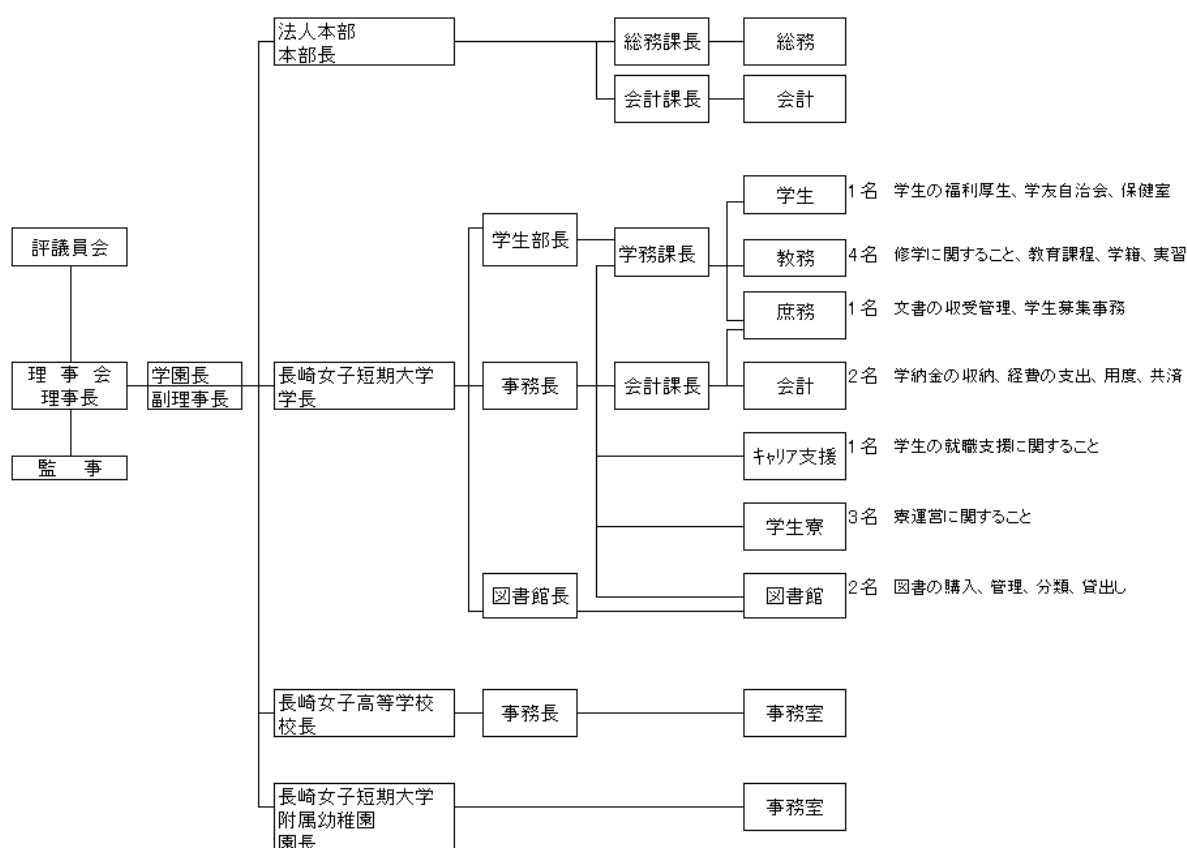
123

（１）現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

事務組織について整備している規程は以下のとおりである。

- ①鶴鳴学園就業規則、②長崎女子短期大学服務規程、
- ③長崎女子短期大学事務局事務分掌規程、④鶴鳴学園事務処理規定

学校法人 鶴鳴学園事務組織図



124

(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。

小規模の法人であり、採用については退職者の補充採用が基本である。今後の厳しい学生募集環境を考えれば、新規採用には慎重にならざるを得ない。契約職員や派遣職員の活用なども視野に置いておくことも必要である。役職者の任用については、業務に対する取り組み姿勢や勤務実績、能力など総合的に行っている。事務職員の高齢化が進んでいるので、厳しい募集環境の下でいかに次世代に引き継いでいくかが課題である。

125

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

就業規則、管理規程、事務局事務分掌規程、事務処理規程、公印取扱規程

126

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

〈決裁処理の流れ〉

一定の予算を伴う事案及び運営に関する重要事項については、稟議書による理事長決裁が必

要である。所定の様式により担当者が起案し関係上長、所属長の承認の後、法人本部を経て理事長の決裁を得る。その他の事案については担当者が起案し、関係上長の承認を経て所属長の決済による。

〈公印・重要書類の保管〉

公印の管理については「公印取扱規程」に定められており、管理責任者が厳重に管理している。学籍簿等の重要書類については金庫または施錠可能なファイリングロッカーで管理している。

〈防災・防犯体制〉

火災報知器等の消防設備については専門業者に委託し、連携して管理している。夜間は警備会社に連動したものになっている。また、4月に避難訓練を実施し、学生の防災に対する意識を喚起している。なお、学生寮については部屋毎に防犯ベルを設置し、警備会社との連動体制となっている。

教職員の防災・防犯体制は整備されているが、訓練を実施していないため機能面で不安があり、防災・防犯訓練の実施が必要であると考えている。

〈情報システムの管理体制〉

情報システムの日常的な管理を、情報教育担当教員に頼っているのが現状であり、管理体制の見直しが課題である。

127

（５）事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

平成21年3月卒業生の卒業時アンケートにおける、事務職員の対応に関する満足度評価では、75.7%という結果であった。今後は更に高い評価がもらえるように努力しなければならない。また、本学では、事務職員も各種委員会にメンバーとして所属し運営に当たることで、教員との協力体制を築くようにしているが、少人数のため業務遅滞が発生することがある。今後、業務の効率化を図ることによって、教員との信頼関係を一層深めていきたい。

128

（６）事務組織のスタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

平成21年度においては、事務職員の専門性を高め、短期大学経営の改善を目指すことを目的に、事務職員を対象に3回の学内研修を実施した。また、外部研修等には可能な限り参加している。

(1) 学内研修

日 時	テーマ	開催場所	講師等
平成21年8月28日 15:00～17:15	コミュニケーションにおける 聴く力、話す力をアップする。	秘書実習室	江頭万里子氏 (本学非常勤講師)
平成21年9月29日 10:00～12:00	情報の一元管理について	第1情報演習室	濱口なぎさ氏 (本学講師)
平成21年12月25日 9:30～11:35	- 入試募集業務の実態と改善策 - 教務事務の実態と改善策 - 短期大学設置基準の研究	会議室	高井学務課長 板倉事務 平野法人本部長

(2) 学外研修会等への参加

期 日	研修会名	開催場所	出席者
平成21年9月14日	私立短大協会「教職員研修会」 ・ファーストステージとしての短期大学の改革 ・職員は全員セールスマン わが学園をどのようにPRするか	福岡ガーデンパレス	高井学務課長 板倉事務 井手口事務
平成21年11月12日	私大の教育・研究充実に関する研究会	東京メルパルクホール	平野法人本部長
平成22年1月13日	私学共済研修会	福岡ガーデンパレス	井手口事務
平成22年1月20日	私経研「中間管理職研修」	大阪ガーデンパレス	三根総務課長
平成22年2月9日	日本学生支援機構奨学業務協議会	九州大学	今泉事務
平成22年2月19日	図書館短期集中セミナー	アクア博多	荒木司書

129

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

職員は16名だが、司書・用務・派遣職員を除く事務局は総勢8名である。業務としては通常の会計、教務、学生支援、キャリア支援の外に入試・広報業務が加わり、多岐にわたっている。

そこで、新たな業務が加わる場合は派遣社員で対応することがある。また、各々が所有している主に学生に関する様々なデータの共有化が進んでいないことで業務が煩雑化している面がある。効率的な業務遂行のために改善が必要となっている。平成21年度はSD研修会で

「情報の共有化」をテーマとして取り上げ、問題解決のための研究にとりかかった。また、多岐にわたる業務を1人ずつで担当しているので、支障を来さないように、日頃から職員同士の連絡を緊密にすることで補完し合っている。

【人事管理について】

130

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

就業については、就業規則、給与規則を遵守しており、これらの規則については、時宜を得たものとするため、また、働きやすい職場とするため、必要に応じて見直しを図りたい。

131

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

〈理事長〉

日頃から経営と教学との意思の疎通を図っておくことは大変重要なことである。特に少子化という厳しい経営環境下においては尚更である。法人においては教育実態を理解・把握したうえで事業計画・予算計画等に反映させることが大切であり、教学においても経営的な側面を承知して教育活動に当たることが望まれる。

このような観点から、副理事長は短大の教授会に出席しており、また短大、高校の運営委員会にも出席して理解に努めている。必要な情報は適宜理事長に報告する体制が整っている。

なお、短大教職員の親睦会には理事長、学園長、副理事長も必ず出席して、教職員個々との対話に努めている。

〈学長〉

特筆すべきものとして、本学園には理事長の諮問機関として「学園合同会議」が存在する。この会議によって、学園全体の情報が共有され、それぞれの部署に持ち帰り、短大は短大の会議の中で報告・通知がなされ、運営に生かされている。また、短大と法人本部の事務局が同一フロアーに位置していることから、直接、情報交換を行うことができ、相互に連携して業務に当たる体制が整っている。

132

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

年間を通じて、短大、あるいは学科専攻の教育的活動や行事に事務職員も関わっている。その際、担当教員と連絡を密にして支障がないように努力しているが、案件によっては担当教員との打合せが不足した場合もあった。そのため、教員組織と事務組織という立場を互いに理解し、大学を支える両輪として良好な関係を構築できるよう努めている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

〈教職員の健康管理〉

就業規則第七章「安全、衛生及び災害補償」の第42条（健康診断）で職員の定期的健康診断を義務付けており、毎年8月に実施している。また、日本私立学校振興・共済事業団の福祉サービスである人間ドッグ利用についても周知と積極的利用を勧めている。

〈就業環境の改善〉

通常は、用務職員が毎日学内を清掃すると共に、指定している一級建築設計事務所や関連業者による施設・設備等の定期的検査を実施し、清潔な就業環境の維持に努めている。特に、空調機については使用時期前に定期清掃を行い、支障が無いように留意している。

ただし、校舎の老朽化に伴い耐震問題、ガス・水道・電気のライフラインや洗面所等の大規模改修については、修理営繕とは別個の予算措置による年次計画での整備を計画している。

〈就業時間の順守〉

勤務日である月曜日から金曜日の就業時間は、午前9時から午後6時までとしている。また、学校行事の増加、授業時間の確保や教員の研究活動・時間外指導等、画一的な就労が難しいこともあるので、平成15年4月より「月間変形労働時間制度」を導入して柔軟な対応が出来るように制度化した。

【特記事項について】

(1) この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

前述の各種委員会の他、学長がリーダーシップを発揮し、各学科・専攻での問題点を解決するため、「学長諮問会議」を開催している。

学科・専攻毎に実施され、その専攻の専任の教員はすべて出席している。学長は学科・専攻の課題、問題点について諮問し、必要に応じて企画立案を促している。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

Ⅷ-1 学校法人鶴鳴学園 寄附行為

Ⅷ-2 平成22年度 長崎女子短期大学学則

〈参考資料〉

- VIII-1 学校法人鶴鳴学園理事・監事・評議員名簿
- VIII-2 平成21年度理事会議事録
- VIII-3 長崎女子短期大学学長任用規程
- VIII-4 長崎女子短期大学各種委員会規程
運営委員会規程、入試委員会規程、改革評価委員会規程、企画広報委員会規程
キャリア支援委員会規程、生涯学習推進委員会規程、学生相談室規程
紀要図書委員会規程、教務委員会規程、学生委員会規程、寮務委員会規程
- VIII-5 学校法人鶴鳴学泉管理規程
- VIII-6 服務規程
- VIII-7 事務局事務分掌
- VIII-8 事務処理規程
- VIII-9 公印取扱規程
- VIII-10 学校法人鶴鳴学園就業規則
- VIII-11 育児休業及び育児短時間勤務に関する規程
- VIII-12 介護休業及び介護短時間勤務に関する規程
- VIII-13 非常勤講師・短時間勤務職員勤務規程

《IX 財務》の記述及び資料等について

【財務運営について】

136

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

現段階では「中・長期の財務計画」は策定していない。過去、次のような施策に取り組み、それが現在に繋がっている。

本学園では、平成11年頃から入学生が急激に減少し始め、当然のことながら財務の悪化を招いた。このため、平成13年度には「長崎女子短期大学現状と対策」を策定し、それに基づいた収支改善施策により改善を図った。併せて介護福祉士養成を目的とした「生活福祉専攻」を立ち上げると共に、募集活動や経費節減等に教職員と危機感を共有して取り組んだことにより、入学生増となり短大の収支も徐々に回復した。

平成18年度からの学園の収支はほぼ均衡を保っているが平成20年度の帰属収支差額比率は△0.8%と支出超過である。少子化は今後も続くので、安定した入学者確保は容易ではなく、収支への影響も懸念される。

本学園では「学園の永続」を基本に早い段階で収支改善施策等に取り組んできたこともあって、直ちに経営に影響することはないが、常に帰属収支差額には注視していきたい。

137

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

〈事業計画〉

法人本部は、各部門から提出された事業計画をもとに原案を作成し、学園合同会議での検討・調整を経たうえで、評議員会の同意を得て理事会で決定される。

〈予算決定に至る過程、手続き〉

収入において大きな比重を占める学生・生徒等納付金の見通しは、短大の推薦入試の状況等により推測することになる。これらをもとに部門毎に予算原案を策定し、本部事務局に提出する。本部事務局では総合的な原案を作成する。それを学園合同会議に示して最終調整したうえで、3月に開催される評議員会に諮り、その同意を得たうえで理事会で決定する。

年度途中において、予備費の範囲を超える事業が発生すれば、補正予算を理事会に諮り、承認を得たうえで執行する。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

〈予算の伝達方法〉

予算は理事会承認後、法人本部から部門毎に伝達する。教員の研究費あるいは実験実習費等については、教授会において配分額を示す。

〈予算執行に係る経理〉

- ①給与等の人件費については部門の事務担当で起案し、本部事務局を経て理事長の決裁を受ける。
- ②経費については、担当者の「物品購入願」「支出願」に基づき所属長、副理事長、理事長の承認を得る。
- ③旅費交通費等については「出張伺」「復命書」に基づき、規定の旅費を算定し、個々に支給する。

〈出納業務の流れ〉

- ①振替伝票作成（証拠書類添付） ②部門で支出決裁 ③法人本部で確認
- ④理事長決裁 ⑤銀行等を通じて支払い完了

〈経理関係規程〉

・経理規程

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

年	月	日	概要	備考
19	4	23	財務にかかわる計算書類の監査（決算監査）	
	4	24	〃（決算監査）	
	4	25	〃（決算監査）	
	12	10	〃（期中監査）	
	12	11	〃（期中監査）	
20	4	23	財務にかかわる計算書類の監査（決算監査）	
	4	24	〃（決算監査）	
	4	25	〃（決算監査）	
	12	10	〃（期中監査）	
	12	11	〃（期中監査）	
21	4	23	財務にかかわる計算書類の監査（決算監査）	
	4	24	〃（決算監査）	
	4	27	〃（決算監査）	
	12	9	〃（期中監査）	
	12	10	〃（期中監査）	

監査結果：3カ年とも指摘事項なし

140

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

財産目録・資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・事業報告書及び監査報告書に決算概況の解説文を添えて、閲覧に供している。また、ホームページ等による公開にも取り組みたい。

141

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

本学園における資金の運用においては安全確実性を第一としている。低金利時代にあつて、仕組債等の金融商品が出回っているが、このような金融商品はリスクが伴うため、本学園では銀行の定期預金を基本としている。

寄附行為の定め：(積立金の保管) 第30条、(経費の支弁) 第31条

142

(7) 寄付金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄付金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

寄付金の募集、学校債の発行共に行っていない。今後も計画はない。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

143

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

144

(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成22年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

145

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表)について、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

帰属収入に対する教育研究費比率は以下の通りである。

〈教育研究費比率〉

(単位：千円)

科 目	平成19年度	平成20年度	平成21年度
教育研究経費支出(a)	162,113	165,190	160,147
帰属収入(b)	715,750	644,569	586,294
教育研究経費比率(a/b)	22.6%	25.6%	27.3%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

本学園の該当規程は次の通りである。

	本学園の該当規程
固定資産管理規程	固定資産及び物品管理規則
図書管理規程	図書除籍内規
消耗品及び貯蔵品管理規程	機器備品の資産計上基準
施設設備等の管理に関する諸規程	固定資産及び物品管理規則 減価償却資産耐用年数に関する内規
財務諸規程	経理規程、給与規程、旅費規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

- ① 火災等の災害対策
- ② 防犯対策
- ③ 学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④ コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤ 省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥ その他

①火災等の災害対策

消防法に定められた防災管理者の配置と、年2回の消防用設備の定期点検を実施している。

②防犯対策

警備会社に委託し、正門の施錠、夜間の敷地内巡視をお願いしている。特に、寮玄関については防犯ベルを設置している。また、地元警察にも巡回等への協力

を依頼している。

③学生、教職員の避難訓練等の対策

全学生と教職員対象の避難訓練は実施していないが、特に火災発生時の危険度が高い学生寮について、年1回の避難訓練を4月に実施している。今後は、回数を2回に増やすように考えている。

④コンピュータのセキュリティ対策

サーバが接続されているインターネット回線のファイヤーウォールにゲートウェイ・アンチウイルス、メールサーバにはアンチウイルス・ソフトウェアが導入されている。しかし、事務局、研究室のパソコンのセキュリティ対策については使用者任せであったことから、USBメモリからのウイルス感染が確認された。このため、平成21年度にセキュリティ対策ソフトの一括導入を行った。また、USBメモリやノートパソコンの紛失、学外持ち出しについて、注意喚起を行っている。

⑤省エネ及び地球環境保全対策

節水については蛇口に節水部品を取付けており、効果がでているとのことであるが、その他では特に具体的な対策は取っていないかった。しかし、関係官庁の通達やコストの面から一層の取り組みを痛感し、平成21年度から、学内の空調機の温度設定制限や昼休みの事務局の一部消灯について取り組んでいる。建物あるいは消防設備、電気設備、受水槽等の維持管理については、指定の業者と連携しながら遺漏のないよう取り組んでいる。

しかしながら、開学が昭和41年ということもあって校舎等の耐震化が遅れていることは否めない。長崎市は地震に対する意識が全体的に低く、また改造には大きな予算を伴うこと等がその理由である。平成21年度は耐震調査を実施し、平成22年度には耐震設計、補強工事に入る。

【特記事項について】

149

(1) この《IX財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし

150

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈添付資料〉

IX-1 学校法人鶴鳴学園 長崎女子短期大学 財務関係資料（財務三表 過去3ヶ年の概要）

〈参考資料〉

- IX-1 学校法人鶴鳴学園経理規定
- IX-2 学校法人鶴鳴学園財産目録
- IX-3 学校法人鶴鳴学園計算書類
- IX-4 固定資産及び物品管理規則
- Ⅲ-12 長崎女子短期大学図書館図書等除籍規程
- IX-5 消耗品及び固定資産及び物品管理規則
- IX-6 機器備品の資産計上基準
- IX-7 減価償却資産耐用年数に関する内規
- IX-8 備品管理内規
- IX-9 施設・設備使用に関する規程
- IX-10 給与規程
- IX-11 旅費規程

《X 改革・改善》の記述及び資料等について

【自己点検・評価について】

151

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

〈大学運営における位置づけ〉

本学は、(財)短期大学基準協会の第三者評価を平成17年度の初年度に受け、「適格」と認定されたが、その後は自己点検・評価を積極的に実施してこなかった。

そこで、改めて自己点検・評価は大学が自ずから教育水準の向上と社会的使命を自覚し、改革を進めていく重要な課題と位置づけ、毎年度取り組むこととした。

〈自己点検・評価を実施するための組織・規程の整備状況〉

各種委員会規程を整備し、その他組織・運営に必要な規程を「長崎女子短期大学諸規程」として編纂した。今後は、必要に応じて、規程の整備や見直しを行っていく。

〈今後の自己点検・評価の方針〉

奈良佐保短期大学との相互評価を実施する計画を進めているが、今後も他短期大学及び高校等、学外からの評価を真摯に受け止め、積極的に改革を進めていきたいと考えている。また、本学は小規模の短期大学であるため、時代の変容に即応しやすい特性がある。全教職員がそれぞれの立場で改善・改革を進めていけるよう、意見を出しやすい環境を整えていきたい。

152

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成19年度～21年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

平成18年度から20年度までの自己点検を行い、「平成18年度・19年度・20年度自己点検報告書」を作成し全教職員に配布した。また、それは本学ホームページで公開した。

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

153

(1) 平成21年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

平成21年度は、学科・専攻、委員会において実施されていた総括を、保管することとした。これにより、全教職員が何らかの形で自己点検・評価に関わった。今後も協働の精神で全学的な関わりを持つことが望ましいと考えている。

(2) 平成21年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成17年度に第三者評価の認証を受けた後、指摘された改善点について、できるものから随時改革を行った。その後、学科専攻、諸委員会毎に毎年総括を行ったが、十分な活用ができたとは言い難い。しかし、平成20年度より、毎年の自己点検・報告書を作成することとし、平成22年度には、平成21年度の自己点検から導き出された課題等について報告会を開催する予定である。全教職員で情報を共有しながら点検・改善の実現を図りたい。

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成21年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

奈良佐保短期大学との相互評価を平成22年度に実施する計画を立てて推進中である。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

運営委員会に包括されていた改革評価の業務を独立させ、平成21年度に改革評価委員会を設立した。規程については、平成21年度に未整備の委員会規程を新たに整備し、その他の諸規程をまとめて「長崎女子短期大学 諸規程」として編纂した。

〈学長〉

産業構造の変化、雇用の流動化、社会情勢の急激な変化を背景に、あらゆる場面において高度な専門的知識が求められる社会にあって、幅広い教育内容を提供できる短期大学の存在は、本県のような西端の地においては極めて存在意義が高いものと考えている。その短期大学としての機能を常に自己評価し、第三者の評価を受けることは、本学の将来を考える時、必要不可欠なものである。

1. 21世紀型市民教育が推進できているか。
2. 職業一般に必要な実務能力の育成ができているか。
3. 特定分野での専門職業能力の育成ができているか。
4. 地域の人材ニーズに対応した教育ができているか。
5. 短期大学士としての学位に値する教育ができているか。
6. 地域の生涯学習の拠点となっているか

等々を自省しながら、P.D.C.Aサイクルに従い、信頼される高等教育機関として存在し続けたい。

【第三者評価（認証評価）について】

157

（１）第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

総括	学長（江副 功）
学内担当	改革評価委員長・A L O（下釜 綾子）
担当部署	改革評価委員会
業務担当	改革評価委員（委員7名）
事務担当	改革評価委員（松尾 信之）
訪問調査対応	A L O、理事長、副理事長、学長、短期大学事務長、学務課長、法人本部長

158

（２）第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びA L O（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

【特記事項について】

159

（１）この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

学内においては、平成21年度にSD研修会3回、FD研修会2回を実施し、教育力向上のための研修の機会充実を図った。また、本学は、短期大学コンソーシアム九州（参加校9校）FD・SD研修に関する研究会の主幹校である。平成22年8月、長崎において1泊2日の研修を実施する計画で、参加予定者は100名を予定している。教職員全員が参加をし、協働意識を深めたいと考えている。

160

（２）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし

〈参考資料〉

X-1 長崎女子短期大学 平成18年度～20年度自己点検報告書

X-2 長崎女子短期大学改革評価委員会規程

《将来計画の策定（自由記述）》の記述について

この「将来計画の策定」は自由記述です。したがって、必ずしも記述する必要はありません。しかし短期大学の現在を理解するためには、将来どのような方向に向かおうとしているかを知ることが重要です。その意味で、短期大学の将来計画（中期・長期計画）がありましたら、差し支えない範囲で記述して下さい。